

公募提案書作成の手引き 令和4年度公募

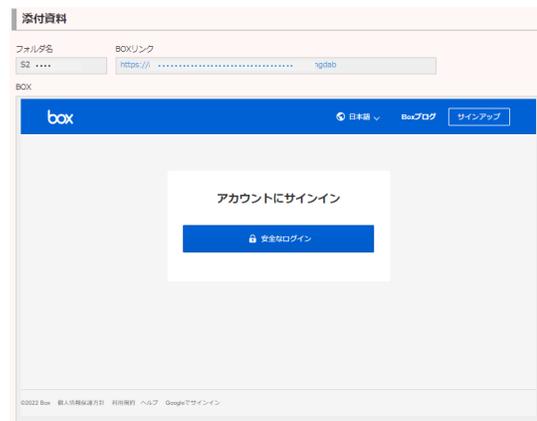
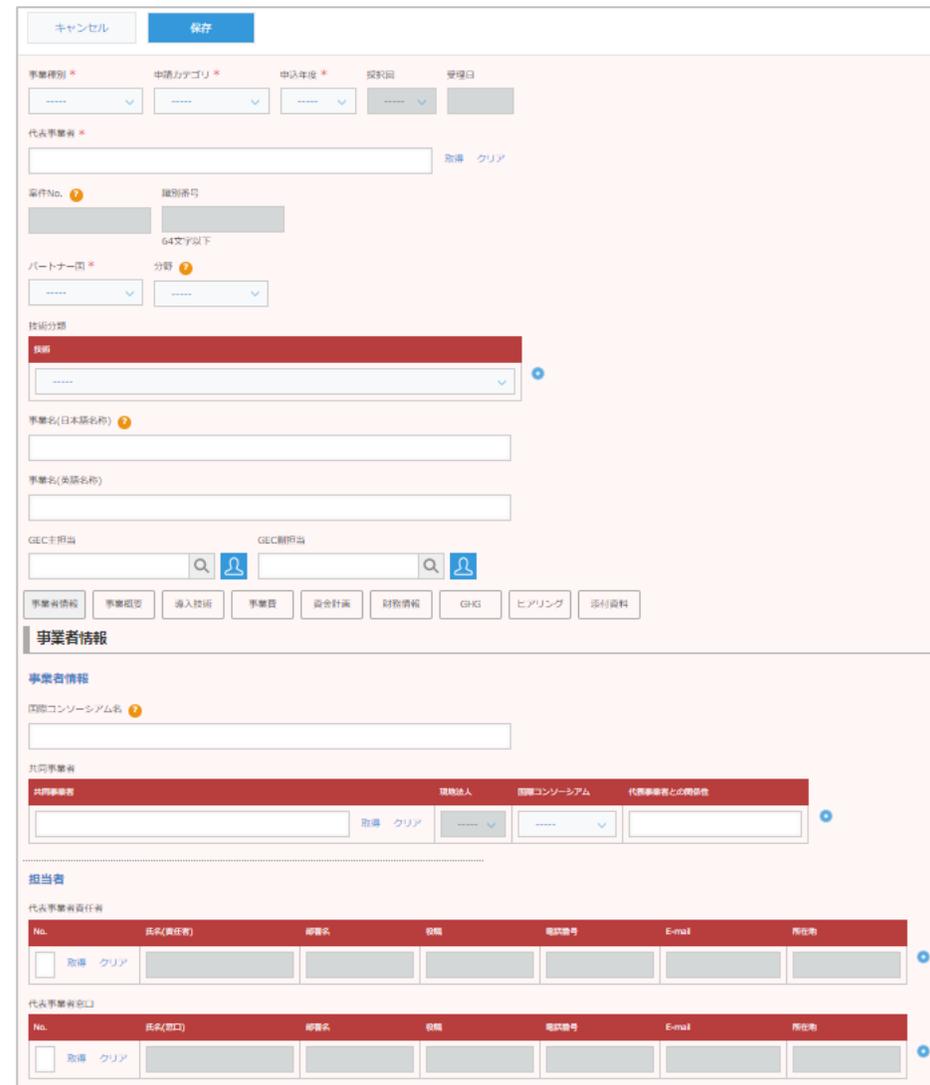
令和4年度から令和6年度
二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金
(二国間クレジット制度資金支援事業のうち設備補助事業)

令和4年4月8日 (6月27日一部更新)

公益財団法人地球環境センター(GEC)



応募はインターネットを利用した電子申請となります。



応募書類作成上の注意点

提出書類一覧（目次）

書類番号*(1)	書 類	様式
0	【様式6】公募提案書類チェックリスト	センター指定様式
1	【様式1】公募提案書	センター指定様式
2	【様式2】代表事業者届出書	センター指定様式
3-00	【様式3-00】実施計画書	システム入力
3-01	事業の主たる実施場所（地図）	任意様式
3-02	許認可等取得状況を示す資料	任意様式
3-03	環境影響評価の実施状況を示す資料	任意様式
3-04	導入設備の運用に必要な原材料調達や売電等にかかる調整状況を示す資料	任意様式
3-05	事業の実施体制図（①補助事業の実施体制、②導入設備・機器の運営・維持管理体制、③MRV実施体制を示す図）	任意様式
3-06	応募者（代表事業者）の事業参画意志決定状況を示す資料	任意様式
3-07	共同事業者の事業参画意志決定状況を示す資料	任意様式
3-08	3-08-01 資金調達の確実性を示す資料*(3) 3-08-02 リース契約書(案)及びリース料算出内訳 *(2) 3-08-03 リース事業の計算フォーマット *(2)	3-08-01, 3-08-02 は任意様式、3-08-03 はセンター指定様式
3-09	投資回収年数及び内部収益率の計算過程・根拠の説明資料（補助あり、補助なしの2通り）*(3)	任意様式
3-10	3-10-01 主要機器リスト 3-10-02 導入設備・機器の様式書及びカタログ	任意様式
3-11	3-11-01 導入設備・機器の概要図 3-11-02 配置図 3-11-03 システム図	任意様式
3-12	GHG排出削減量算定の根拠資料	センター指定様式
3-13	モニタリング機器の様式書及びカタログ	任意様式
3-14	モニタリングに関するシステム図	任意様式
3-15	事業実施スケジュール	任意様式
3-16	【様式3-16】Project Idea Note for the Model Project	センター指定様式
4	4-01 【様式4】経費内訳 4-02 積算根拠資料	システム入力 任意様式
5-01	5-01 国際コンソーシアム協定書(案)	センター指定様式
5-02	【様式5】Agreement on the Allocation of JCM Credits	センター指定様式
6	6-01 応募者の会社概要・事業実績に係る資料 6-02 応募者の経理状況説明書	センター指定様式 任意様式
7	7-01 共同事業者の会社概要・事業実績に係る資料 7-02 共同事業者の経理状況説明書 *(3)	任意様式 任意様式
8~	その他参考資料	任意様式

応募書類作成上の注意点

- ① 補助金に関係する全ての提出書類について、いかなる理由があってもその内容に虚偽の記述を行わないでください。
- ② 様式については公募ウェブサイト掲載の最新版を必ず参照の上、全項目に漏れなく記入してください。システム入力の場合は、電子申請マニュアルを必ず確認の上、システム上で入力してください。
- ③ 原則として、一度提出された書類の変更は受け付けません。
- ④ 提出された書類および電子媒体は返却しませんので、予めご了承ください。
- ⑤ 和文、英文以外の書類については、審査に支障をきたさないよう和訳を添付してください。なお、英文書類についても応募受付後に和訳の添付をお願いすることがあります。
- ⑥ 過去に応募経験のある事業者様においても、必ず令和4年度公募要領及び最新の関連書類（令和4年度交付規程、本手引き、Q&Aなど）に目を通した上で書類を作成してください。

書類データを保存したCD-RまたはDVD-Rの提出は、原則として求めません。

- * (1) : • 電子システム申請上のBoxフォルダ内で書類番号順に並びように、フォルダは作らないようにしてください(書類番号とその内容をファイル名としたファイルのみをBoxフォルダに入れてください)。
• 必要に応じて書類番号には枝番号をつけてください。但し、Boxフォルダ内で書類番号順に並びように、1階層目は1桁の半角数字、2階層目より下は2桁の半角数字としてください。
• できるだけ3階層までの構成としてください。
例) 3-02-01, 3-02-02, など。

* (2) : JCMエコリース事業のみ提出要

* (3) : 設備補助事業のみ提出要

センター指定様式は公募のホームページに公開しています。

公募提案書（様式1）

① 202X年 月 日
※(注)

公益財団法人地球環境センター 理事長 ○○ ○○殿

② 応募者 住 所
氏名又は名称
代表者の職・氏名

令和4年度から令和6年度二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金
(二国間クレジット制度資金支援事業のうち設備補助事業)
公募提案書

令和4年度から令和6年度二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金(二国間クレジット制度資金支援事業のうち設備補助事業)交付規程第3条第1項に規定する補助事業について、交付規程および公募要領に従い、下記のとおり提案致します。

なお、提案に当たり、公募要領別添1に示す暴力団排除に関する誓約事項に誓約します。

記

③ 1 国名及び事業名

2 補助事業の目的及び内容
「様式3-0a 実施計画書」及び
「様式3-0b Project Idea Note for the JCM Model Project」のとおり

④ 3 補助金の額

	金	円
うち消費税及び地方消費税相当額		円)
内訳 202X年度 ※(注)	金	円
202Y年度	金	円
202Z年度	金	円

(詳細については「様式4 経費内訳」のとおり)

⑤ 4 補助事業の完了予定年月日
202Z年 月 日

⑥ 5 その他参考資料

⑦ 6 本件責任者及び担当者の氏名、連絡先等

(1) 責任者の所属部署・職名・氏名

(2) 担当者の所属部署・職名・氏名

(3) 連絡先(電話番号・Eメールアドレス)

以上

① 応募年月日

- 公募提案書の提出日となります。

② 応募者

- 国際コンソーシアム（日本法人と外国法人により構成され、事業を効率的に実施する組織）の代表事業者（日本法人）を記載。
- 代表者の職は、代表取締役（社長）または、本事業を推進する事業部門長（取締役や執行役員）でも可。

③ 国名及び事業名

- 事業名は、事業内容を簡潔明瞭に表現した名称としてください。
- 対象サイト（工場等の種別）とCO₂排出削減設備（補助対象となる設備）などの名称を入れた事業名としてください。

※ 参考：GEC JCMウェブサイト 事例紹介 <http://gecip/jcm/jp/projects/>

④ 補助金の額

- 経費内訳【様式4】の補助金の額及び年度別補助金の額となります。
- うち消費税及び地方消費税相当額は、原則0円となります。
(消費税及び地方消費税の納税義務者でない場合、及び特別な免税事業者を除く)

⑤ 補助事業の完了予定年月日

- 補助事業の完了：補助事業で導入する設備に係る試運転及び支払を含めて完了した時期になります。
- 実施計画書【様式3-00】の事業実施スケジュールと合わせる必要があります。
- 単年度事業：令和5年2月28日（火）が最終
2カ年事業：令和6年2月28日（水）が最終
3カ年事業：令和7年1月31日（金）が最終

⑥ その他参考資料

実施計画書の根拠資料（仕様書、見積書及び各種計算書等）をはじめとするその他参考資料を【様式6】チェックリストなどを参照の上、準備ください。

⑦ 責任者及び担当者の氏名・連絡先等

- 応募案件の責任者及び担当者の氏名・連絡先の情報が必要です。

公募提案書（様式2）
202X年 月 日

①

公益財団法人 地球環境センター
理事長 殿

② 住 所
氏名又は名称
代表者の職・氏名

代表事業者届出書

令和4年度から令和6年度二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金（二国間クレジット制度資金支援事業のうち設備補助事業）に関して、下記事業を実施するための国際コンソーシアムの代表事業者として、交付申請及びそれ以降の手続きを行うものとして届け出ます。

設備の購入・設置、試運転に加え、補助事業に係る経理その他の事務及び温室効果ガス排出削減量の測定・報告・検証（MRV）を代表事業者の責により行います。また、共同事業者における交付規程違反等に係る返還義務について、代表事業者が負うことに同意します。

記

1 国名及び事業名：
（日本語名称）
（英語名称）

③ 2 国際コンソーシアム名：
（日本語名称）
（英語名称）

3 国際コンソーシアムにおける共同事業者名：
・
・

④ 4 本件責任者及び担当者の氏名、連絡先等
(1) 責任者の所属部署・職名・氏名
(2) 担当者の所属部署・職名・氏名
(3) 連絡先（電話番号・Eメールアドレス）

以 上

国際コンソーシアム構成員の責務については、交付規程および公募要領（特に2.（5）国際コンソーシアム構成員の責務）で確認ください。

- ① 日付は、公募提案書【様式1】の応募年月日またはそれ以前となります。
- ② 住所、氏名又は名称、代表者の職・氏名、事業名は公募提案書【様式1】と同一となります。
- ③ 国際コンソーシアム名は事業名と関連する名称としてください。

e.g. A&B工場における〇〇システムの導入プロジェクトコンソーシアム
- ④ 応募案件の責任者及び担当者の氏名・連絡先の情報が必要です。

実際はシステム入力です。

公募ウェブページに掲載している「記入指針」および「記入例」を参考に記入してください。

別紙1-① (設備補助事業)

二国間クレジット制度資金支援事業のうち設備補助事業実施計画書 (記入指針)

国名及び事業名	和文名: 「対象国」 / 「事業名」 の形式で記入する。 英文名: 「対象国」 / 「事業名」 の形式で記入する。 事業名は過去の採択案件を参照して記入する。 二国間クレジット制度 (JCM) とは 二国間クレジット制度(Joint Crediting Mechanism (JCM)) (grec.jp) 記入例) ○○国/○○州におけるOMW 太陽光発電の導入 ○○国/○○工場へのコジェネレーションシステム及び吸収式冷凍機の導入		
代表事業者名	和文名: 応募事業者名 (和文名) を記入する。 英文名: 応募事業者名 (英文名) を記入する。		
代表事業者の連絡先	氏名 (責任者)	部署名・役職名	所在地
	電話番号	E-mail アドレス	
	氏名 (窓口)	部署名・役職名	所在地
	電話番号	E-mail アドレス	
共同事業者名①	* 共同事業者が3社以上の場合は、欄を追加する。		
共同事業者の連絡先	氏名 (責任者)	部署名・役職名	所在地
	電話番号	E-mail アドレス	
共同事業者名②	* 共同事業者が1社の場合は、欄を削除する。		
共同事業者の連絡先	氏名 (責任者)	部署名・役職名	所在地
	電話番号	E-mail アドレス	
事業の主たる実施場所 (所在地)	* 実際に本事業を実施する事業所の住所及び所在地 (例: ○○市内から東南に直線約80km) を当欄に記入するとともに、別紙『事業の主たる実施場所(所在地地図)【書類番号3-01】』を添付する。(別紙には①実施国における事業所の位置を示す地図、②最寄りの空港などの交通機関から事業所に至る経路を示す地図、③事業所敷地内における導入設備の配置を示す地図(工場配置図等)を添付する。【書類番号3-01】の地図がGoogleなど外部データ引用の場合は出典元を明記する。) * 参照別紙がある際は、都度書類番号を併記すること。(例: 【書類番号3-01】参照) 以降同様。		

✓ 事業内容を簡潔明瞭に表した名称
 ✓ 和文名と英語名の両方を記入。

✓ 代表事業者名は和文名と英語名の両方を記入。

✓ 事業内容を把握している責任者を記載。
 ✓ 公募提案書【様式1】および代表事業者届出書【様式2】の代表者と一致させる必要はない。
 例: 様式1&2 = 代表取締役社長
 様式3-00 = ●●事業部長

✓ すべての共同事業者を記入。
 ✓ 3者以上の場合は記入欄を追加して記入。
 ✓ 導入設備の所有者及び使用者は必ずコンソーシアム内の事業者としてください。

建物配置図: 設備を導入する工場建屋等の配置が分かるもの。導入設備・機器の建屋内での配置図は【書類番号3-11-02】で作成ください。

<1. 事業の目的・概要・経緯>

(1) 事業目的

* 二国間クレジット制度の理念を踏まえ、本事業の目的を記入する。

(2) 事業概要

* 本事業の概要、本事業で導入する設備等の概要（内容・規模・導入台数等）と導入先を具体的に記入する。

(3) 事業形態

* 事業の形態を以下の項目から選択（複数選択可）し、事業内容を具体的に記入する。

- ① 電気・熱供給事業
- ② 電気・熱自家消費事業
- ③ 省エネルギー事業
- ④ 廃棄物処理事業
- ⑤ 交通関連事業
- ⑥ 自社製品調達事業（国際コンソーシアム構成員自身が自社製品の調達を行う事業）
- ⑦ 現地子会社向け事業
- ⑧ 代表事業者が投資する事業（投資割合も記入する）
- ⑨ リース事業
- ⑩ その他（ ）

(4) 事業経緯（事業の成り立ち、背景等）

- * 事業立案に至った経緯を具体的に記入する。
- * 国際コンソーシアム構成員名を網羅した形で記入する。

（1）基礎審査 3）民間企業による優れた脱炭素技術等を活用した事業への投資の促進

事業の形態を選択。事業内容は、事業の目的、提案の経緯、内容、規模、技術、対象サイトについて具体的、簡潔に表現する。

<2. 事業者の概要>

(1) 代表事業者の概要 (代表事業者名)

- 1) 設立年月:
- 2) 事業内容:
- 3) 従業員数:

必ず事業者名を記入ください。

- (1) 基礎審査 1) 補助事業者の要件を満たしているか
- (2) 評価審査(A)① 代表事業者の経営健全性及び事業遂行能力

4) 直近3期分の経理状況 (単位: 百万円、%、倍)

貸借対照表 *新しい年度順、連結財務諸表作成会社は連結財務諸表

	純資産	現預金	自己資本比率	流動比率
年 月				
年 月				
年 月				

システム上の表に申請

損益計算書・キャッシュフロー計算書 *新しい年度順、連結財務諸表作成会社は連結財務諸表

	売上高	当期純利益	営業利益成長率	有利子負債/営業キャッシュフロー倍率
年 月				
年 月				
年 月				

システム上の表に申請

* 経理状況説明書(直近3期分の監査済みの貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、キャッシュフロー計算書及び監査報告書を提出してください。法令上キャッシュフロー計算書を作成する義務がない場合は、これを提出しなくてもかまいません。その場合、上記表の「有利子負債/営業キャッシュフロー倍率」は、「有利子負債/営業利益倍率」を計算して記載し、当該項目名を「有利子負債/営業利益倍率」と書き換えてください。リース会社はこの項目の計算は不要です。監査報告書は、当該財務諸表作成において準拠した会計基準がなにか、そして提出された財務諸表がその会計基準に準拠しており、かつ、適正に表示されていることを明確に証するものを提出すること。)

* 上記「経理状況」欄記載に加えて単体財務諸表及び連結財務諸表を資料として提出してください。(代表事業者自身が親会社である場合は自社の単体と連結の財務諸表、子会社である場合は自身の財務諸表に加え、親会社の連結と単体の財務諸表)

* 直近3期のうち、1期でも営業損失、経常損失、又は債務超過が存在する場合、これらの問題が生じた原因、具体的な改善策とその有効性を論じた経営改善計画等を添付してください。既に最近期でマイナス状態が解消されている場合は、過年度でマイナスだった理由を記載してください(様式任意)。

* 応募時に会社設立後3会計期間を経過していない事業者は、以下の書類を提出してください。

- ① 法人設立から1会計年度を経過していない場合:
応募年度の事業計画及び収支予算
- ② 法人設立から1会計年度を経過し、かつ、2会計年度を経過していない場合:
応募年度の事業計画及び収支予算、直近1決算期に関する財務諸表
- ③ 法人設立から2会計年度を経過し、かつ、3会計年度を経過していない場合:
直近2決算期に関する財務諸表

財務諸表の連結、単体についての説明については、こちらをご確認ください。

(2) 代表事業者の脱炭素化に資する環境対策への取組

1) 過去・将来における脱炭素化に向けての取組：

* 代表事業者の脱炭素化に関する経営方針や取り組み事例を記入する。

2) 類似事業の実績：

* 導入する設備に関する日本又は海外での実績を記入する。

3) JCM 関連業務の実績：

* 環境省の JCM 設備補助事業や途上国イノベーション事業、コ・イノベーション事業、水素製造・利活用第三国連携事業、NEDO 等の JCM 実証事業の実績等がある場合は採択年度、事業者名、対象国、事業名を記入する。

(2) 評価審査(A)
①共同事業者の情報

審査 POINT!

途上国イノベーション事業、コ・イノベーション事業の実績は評価審査の対象になります。

(3) 共同事業者の概要 (共同事業者名)

*共同事業者が複数ある場合は、共同事業者の数だけ、事業者ごとにまとめて記載

- 1) 設立年月:
- 2) 事業内容:
- 3) 従業員数:

必ず事業者名を
記入ください。

4) 直近3期分の経理状況 (単位: 現地通貨は XX、換算円価は百万円、%、倍)

貸借対照表 *新しい年度順、連結財務諸表作成会社は連結財務諸表

	純資産	現預金	自己資本比率	流動比率
年 月	0	0		
年 月	0	0		
年 月	0	0		

(2) 評価審査(A)
①共同事業者の経営健全性及び事業遂行能力

損益計算書・キャッシュフロー計算書 *新しい年度順、連結財務諸表作成会社は連結財務諸表

	売上高	当期純利益	営業利益成長率	有利子負債/営業キャッシュフロー倍率
年 月	0	0		
年 月	0	0		
年 月	0	0		

システム上の表に申請

システム上の表に申請

- * 外国法人の共同事業者の経理状況の各金額は、現地通貨での金額を記入するとともに、参考値として現地通貨での金額を日本円に換算した金額を括弧書きで記入する。換算レートとそのレートを採用した年月日を欄外に記載する。
- * 経理状況説明書(直近3決算期の監査済みの貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、キャッシュフロー計算書及び監査報告書を提出すること。法令上キャッシュフロー計算書を作成する義務がない場合は、これを提出しなくてもかまいません。その場合、上記表の「有利子負債/営業キャッシュフロー倍率」は、「有利子負債/営業利益倍率」を計算して記載し、当該項目名を「有利子負債/営業利益倍率」と書き換えてください。リース会社はこの項目の計算は不要です。監査報告書は、当該財務諸表作成において準拠した会計基準がなにか、そして提出された財務諸表がその会計基準に準拠しており、かつ、適正に表示されていることを明確に証するものを提出すること。)
- * 上記「経理状況」欄は、共同事業者の財務数値を記載し、加えて、単体財務諸表及び連結財務諸表を提出してください。(共同事業者自身が親会社である場合は自社の単体と連結の財務諸表、子会社である場合は自身の財務諸表に加え、親会社の連結と単体の財務諸表)
- * 設立が未了であり、予定の段階であれば、設立の認可を受け、又は設立の認可が適当であるとされた法人の申請年度の事業計画及び収支予算の案を提出すること。
- * 当該事業の資金調達が親会社等の出資・融資・保証による場合(共同事業者が特別目的会社(SPC)の場合を含む)は、これらの関係者についても同様の欄を追加し、記載の上、資料を提出すること。

5) 日本企業の現地法人に該当するか:

- * 該当する場合、日本企業の社名を記載する。

JCMエコリース事業の場合

(2) 代表事業者の脱炭素化に資する環境対策への取組

1) 過去・将来における脱炭素化に向けての取組：

* 代表事業者の脱炭素化に関する経営方針や取り組み事例を記入する。

2) 類似事業の実績：

* 導入する設備に関する日本又は海外での実績を記入する。

3) JCM 関連業務の実績：

* 環境省の JCM 設備補助事業や途上国イノベーション事業、コ・イノベーション事業、水素製造・利活用第三国連携事業、NEDO 等の JCM 実証事業の実績がある場合は採択年度、事業者名、対象国、事業名を記入する。

(2) 評価審査(A)
①共同事業者の情報

(3) 共同事業者の概要（共同事業者名）*共同事業者が複数ある場合は、共同事業者の数だけ、事業者ごとにまとめて記載する。

1) 設立年月：

2) 事業内容：

3) 日本企業の現地法人に該当するか：

POINT!

共同事業者の経理状況についてはリース会社が十分な審査を実施していると考えられますので、JCMエコリース事業では共同事業者の経理状況を示す資料(直近3決算期の監査済み貸借対照表、損益計算書及び監査報告書)の提出を求めません。

(2) 評価審査(B) 事業の確実性

< 3. 事業計画 >

(1) 事業実施サイトの土地確保の状況及び予定

- * 本事業実施に際して土地の確保が必要な場合、土地確保に向けた取り組みや、契約（予定）日等のスケジュールを記入するとともに、必要に応じて根拠資料を添付する。特に、土地の権利譲渡等が発生する場合は、地権者との交渉状況や契約完了までのスケジュールを具体的に記入する。

(2) 事業実施の前提となる許認可取得と関連契約等の状況及び予定

- * 許認可及び事業権の概要及びそれらの取得状況について当欄で説明するとともに、別紙『許認可等取得状況を示す資料【書類番号 3-02】』を添付する。
- * 環境影響評価の概要及び環境影響評価の実施状況について当欄で説明するとともに、別紙『環境影響評価の実施状況を示す資料【書類番号 3-03】』を添付する。
- * 導入設備の運用に必要な売電等にかかる調整状況について当欄で説明するとともに、別紙『導入設備の運用に必要な原材料調達や売電等にかかる調整状況を示す資料【書類番号 3-04】』を添付する。
- * 事業実施に係る権利に入札を要する案件については、入札方式と採択までのスケジュールを説明すること。また、補助金交付を前提にしない価格で落札済みまたは応札した場合、一般に補助金の交付如何によらず事業が実施できることが推察されますので、原則として採択できません。補助金交付を前提にした価格で応札する場合は、不採択となった場合に事業者がそのリスクを負うこととなります。

(3) 原燃料の調達計画

- * 導入設備の運用に必要な原材料調達状況について当欄で説明するとともに、別紙『導入設備の運用に必要な原材料調達や売電等にかかる調整状況を示す資料【書類番号 3-04】』を添付する。

【応募様式3-00】実施計画書(3. 事業計画)

(4) 補助事業の実施体制と役割分担

- * 本事業の実施体制について、発注先に加え、国際コンソーシアム内の施工監理や経理等の体制を含めた情報を当欄に記入するとともに、別紙『事業の実施体制図(①補助事業の実施体制を示す図)【書類番号3-05】』を添付する。
- * 補助対象設備の所有者(パートナー国の法律で設備の所有権を有する者)を明記すること。単独所有者でない場合はその所有の方法がパートナー国の法律に基づいていることを説明すること。

(5) 国際コンソーシアム協定の締結状況

- * 本事業の代表事業者、共同事業者間の国際コンソーシアム協定の締結状況について当欄に記入するとともに、提案時点では、ドラフト(サインなし)の別紙『国際コンソーシアム協定書(案)【書類番号5-01】』を添付する。協定書(案)にはコンソーシアム体制図を含める。
- * 共同事業者の国際コンソーシアム協定締結がJCM設備補助事業の採択を条件とするMOUを締結している場合、それを明記する。

(6) 導入設備の運営維持管理体制及びモニタリングの実施体制

<導入設備の運営維持管理体制>

- * 本事業で導入する設備の運営維持管理体制について、設備の保守計画を含めた情報を当欄に記入するとともに、別紙『事業の実施体制図(②導入設備・機器の運営・維持管理体制)【書類番号3-05】』を添付する。(注1)

<モニタリングの実施体制>

- * 本事業で導入する設備のモニタリングの実施体制について当欄に記入するとともに、別紙『事業の実施体制図(③MRV実施体制を示す図)【書類番号3-05】』を添付する。(注1)
- * モニタリング機器の仕様書及びカタログ【書類番号3-13】及びモニタリングに関するシステム図【書類番号3-14】を添付し、モニタリング方法(各モニタリング項目についてモニタリング機器の設置箇所、計測精度及び頻度、データ収集・保存方法等のモニタリング方法をまとめる)及びモニタリング実施体制(モニタリング機器の維持管理体制、及びデータ収集・保存体制についてまとめる)について記入する。
- * モニタリング機器は以下のいずれかの基準を満たすものを選択ください。
 - ・パートナー国の規則又は製造業者の推奨にしたがって交換又は校正が実施できること。
 - ・精度の記載のある機器製造者の仕様書、又はIEC等国際/国内基準に基づき発行された公認機関の証明がある。

(注1) 運営維持管理体制とモニタリング実施体制をまとめて記入してもよい。

(7) 事業に対する代表事業者および共同事業者の意思決定状況

- * 本事業の応募者(代表事業者)及び共同事業者の事業参画意志決定状況(取締役会での決定状況等)について当欄に記入するとともに、別紙『応募者(代表事業者)及び共同事業者の事業参画意志決定状況を示す資料【書類番号3-06】及び【書類番号3-07】』を添付する。社内での決裁(審査)体制等の詳細についても【書類番号3-06】で説明する。
- * 共同事業者の事業参画意志決定状況を示す資料は、単なる関心表明レターではなく、代表事業者と共同事業者が合意した事業計画(対象設備の規模・性能・台数、発注先、価格、設備導入スケジュール、導入後の稼働計画等)を、審査中あるいは採択後に共同事業者が変更することがないように、事業計画に合意していることを代表事業者として説明できる共同事業者のレターを添付すること。

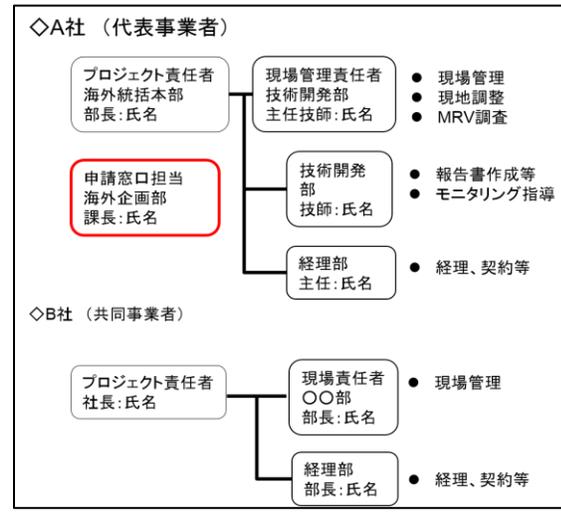
(2) 評価審査(A)事業遂行体制の確実性

補助事業者の要件(公募要領2.(4))

- ③ 補助事業を的確に遂行するに足る実績・能力・実施体制が構築されており、技術的能力を有すること。
- ④ 補助事業を的確に遂行するのに必要な経理的基礎・経営健全性を有すること。
- ⑤ 補助事業に係る経理その他の事務について適切な管理体制及び処理能力を有すること。

(2) 評価審査(A)② 事業実施体制の構築状況(意思決定状況)

<3.(6)> 実施体制図(例)



< 4. 資金計画と採算性 >

(1) 資金計画

1) 資金調達先・支出割合

手 法 :	融資・出資・自己資金・その他 (具体的に記入)		
調達先①:			
金 額 :	XX 円	割 合 :	XX%
確定までのスケジュール	時 期 :	完了	エビデンス (完了済の場合)
1	タームシートの条件に合意	●●年●月●日	○ 書類番号 3-07-01
2	融資契約の締結	●●年●月	未
3	……		

(2) 評価審査
(B)③ 資金計画の妥当性

資金調達に関する表
事業実施のための資金計画を、金額、調達先、調達先の意思決定状況など具体的に記入してください。

システム上の表に申請

資金調達の確実性を示してください。

(1) 基礎審査 14) JICA、政府系金融機関等の出資・融資を受ける事業との連携

本事業の補助により導入する設備等について、日本国からの他の補助金（補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律（昭和30年法律第179号。以下「適正化法」という。）第2条第1項に規定する「補助金等」及び同条第4項に規定する「間接補助金等」をいう）を受けていないこと。

設備補助事業で導入する設備を担保に供する場合には、必ず事前に財産処分の申請及び承認を受けて戴く必要があります。

* 補助事業に要する経費を支払うための資金の調達計画及び調達方法について、具体的な資金調達先と金額（借入れの場合は、金利、返済期間、担保も含める）を含めて当欄に記入するとともに、別紙『資金調達の確実性を示す資料【書類番号3-08】』を添付する。

* 補助対象設備に抵当権を設定する場合は、その内容を記入する。

* SPC を設立する場合は、その出資者構成と出資比率を具体的に記入する。

2) 各資金調達先（自己資金の場合を含む）の意志決定状況

* 各資金調達先との交渉状況や調達完了までのスケジュールを具体的に記入する。

3) JICA、政府系金融機関等の出資・融資を受ける事業との連携の有無と協議状況

* 本設備補助事業の利用に加えて、JICA、やJOIN、JICT、NEXI など、公的機関やJBIC、ADB、世銀等の政府系・国際開発金融機関の出資・融資を受ける場合、機関の名称、資金制度の名称、出資・融資範囲、スケジュールを具体的に記入する。

4) 他の補助金との関係

* 日本国もしくはパートナー国の他の補助金等（固定価格買取制度を含む。）への応募を検討している場合は、補助金等の名称、応募状況等を具体的に記入する。

JCMエコリース事業の場合

< 4. 資金計画と採算性 >

(1) 資金計画

1) リース契約の概要

- * リース企業、設備供給者（メーカー）、使用者（ユーザー）、リース期間、リース対象設備を含めて、リース契約の概要を記入する。リース契約書（案）及びリース料算出内訳【書類番号3-08-02】を添付する。
- * 【書類番号3-08-03】JCM リース事業の計算フォーマット (<https://gec.jp/jcm/jp/kobo/mp210407/>) を添付し、必要な情報を入力する。

2) リース契約に係るリース企業と設備供給者（メーカー）と使用者（ユーザー）それぞれの意志決定状況

- * リース契約の締結状況について記入する。

3) JICA、政府系金融機関等の出資・融資を受ける事業との連携の有無と協議状況

- * 本設備補助事業の利用に加えて、JICA、や JOIN、JICT、NEXI などの公的機関や JBIC、ADB、世銀等の政府系・国際開発金融機関の出資・融資を受ける場合、機関の名称、資金制度の名称、出資・融資範囲、スケジュールを具体的に記入する。

4) 他の補助金との関係

- * 日本国もしくはパートナー国の他の補助金等（固定価格買取制度を含む。）への応募を検討している場合は、補助金等の名称、応募状況等を具体的に記入する。

(2) リース料算出内訳

1) リース料総額（補助金なし）:	円	（うち取得価額	円）
2) リース料総額（補助金あり）:	円	（うち取得価額	円）
3) 補助金の有無によるリース料の差額:	円		
4) 補助金交付申請額:	円		

- * 補助金交付申請額はリース導入費（補助対象の設備費相当分とそれに伴うリース金利）に補助率(10%)を掛けたものとする。

POINT!

JCMエコリースではリース事業の計算書を提出してください。
(所定のフォーマット有)

POINT!

補助金の有無によるリース料総額を算出しご記入ください。

< 5. 事業の性格 >

(1) 事業実施にあたり想定されるリスクとその対処方法
 * 本事業の実施期間及び設備稼働後のモニタリング期間に想定されるリスクと、各リスクに対処する方法について具体的に記入する。
 1) 補助事業完了までのリスク (本事業の実施期間)
 2) MRV 実施期間 (=法定耐用年数期間) におけるリスク (設備稼働後)

(2) 事業の公益性
 * 本事業がパートナー国のNDC 達成に寄与することについて具体的に記入する。

(3) 環境・社会経済への影響
 * 設備導入や運転について、パートナー国の環境法体系 (大気汚染、水質汚濁、廃棄物処理、騒音・振動、生態系等) を遵守できているかを具体的に記入する。
 その他、本事業が地域の環境、社会経済へ与える影響や、負の影響を低減させるための施策等について具体的に記入する。
 * 特に負の影響について、国際条約等に抵触する技術を活用する設備 (例: モントリオール議定書に基づくオゾン層破壊物質を冷媒として使用する冷凍機等) を設備補助事業で導入しないこと、また、本事業の前提として、国際条約等に抵触する技術を活用する設備の撤去が含まれる場合、当該撤去が適切に行われることについて具体的に記入する。
 * 環境影響のうち気候変動の適応対策に関する内容があれば、具体的に記述する。

(4) 持続可能な開発やSDGs への貢献 (ジェンダー・ガイドラインについても参照の上、記載すること)
 * 本事業がパートナー国の政策等に照らし、パートナー国の持続可能な開発または持続可能な開発目標 (SDGs) へ寄与することを環境面、社会面、技術面、経済面、ジェンダーの平等性 (①女性のエンパワメントの促進、②ジェンダーバランスの取れた意思決定プロセス、③女性の健康と生活水準の向上) 等での貢献について具体的に記入する。

<参照リンク>
 ・JCM 設備補助事業ジェンダー・ガイドライン:
https://gec.jp/jcm/jp/kobo/r02/mp/jcmsbsdR2_gender.pdf

(5) 人権デュー・ディリジェンスの対応等 (「ビジネスと人権」に関する行動計画 (2020-2025) (令和2 年 10 月 ビジネスと人権に関する行動計画に係る関係府省庁連絡会議策定) を確認の上、対応を講じた場合、以下をチェックすること。)

「ビジネスと人権」に関する行動計画 (2020-2025) を踏まえ、本事業の実施において、人権デュー・ディリジェンスのプロセスを導入すること、サプライチェーンにおけるものを含むステークホルダーとの対話を行うこと等の適切な対応を講じている

<参照リンク>
 ・「ビジネスと人権」に関する行動計画 (2020-2025):
<https://www.mofa.go.jp/mofaj/files/100104121.pdf>

事業実施上のリスク
 事業がパートナー国に与える影響を
 ・公益性
 ・環境、社会経済への影響
 ・持続可能な成長への貢献 などの面から記入する。

(1) 基礎審査 11)
 ・パートナー国の環境法体系を順守、国際的な慣行・ガイドラインを参照

POINT!
 昨年度策定された、JCMジェンダー・ガイドラインをご確認ください。

(1) 基礎審査 12)
 ・補助事業がパートナー国の持続可能な開発やSDGs の実現に寄与
 ・ジェンダー・ガイドラインに沿っている

(1) 基礎審査 13)

POINT!
 リンクにある「ビジネスと人権」に関する行動計画(2020-2025) をご確認の上、適切な対応を講じて、申請時にチェック(✓)を入れてください。

< 6. 導入技術・設備 >

(1) 導入技術及び設備の概要

- * 本事業で導入する技術・設備の概要及び代替される技術・設備の概要について、図や表を用いて具体的に記入する。
- * 別紙『主要機器リスト、導入設備・機器の仕様書及びカタログ【書類番号3-10】』を添付する。
- * 別紙『導入設備・機器の概要図、配置図及びシステム図【書類番号3-11】』を添付する。

(1) 基礎審査 2)

導入する設備・機器の名称、主な仕様、台数等をまとめた「主要機器リスト」を3-10-01として、「導入設備・機器の仕様書及びカタログ」を3-10-02として添付ください。

(2) 導入技術及び設備の優位性

- * 本事業で導入する技術の選定理由と価格妥当性について、競合製品・技術との性能・効率・コスト面での比較（メーカー名や定量的なデータによる説明を含む）を含めて記入するとともに、比較対象となる競合製品等については必要に応じて根拠資料を添付する。特に、定量的なデータによる優位性の説明（例：エアコンのCOPの比較）とともに、その優位性を達成している技術的な特徴（例：高効率圧縮機、インバータ制御）の両方を具体的に記入する。
また、当該技術が、パートナー国の省エネルギー等に関する規格において高い性能を有していることを定量的に記入する。
- * コスト面での比較については、インシヤルコストだけではなく、ランニングコストやライフサイクルコストも含めて比較を行うこと。
- * 太陽光発電の場合、または太陽光発電+蓄電池の場合は、公募要領（別添5）の技術別採択条件を満たすことを記入する。

(1) 基礎審査 4)

『【書類番号 3-11】導入設備・機器の配置図及びシステム図』：導入する設備・機器の仕組みを分かりやすく説明した概要図、導入設備・機器の(建屋内)配置図及びシステム図を添付してください。

✓ 本事業で導入する技術・設備概要、優位性、GHG排出削減の仕組みについて記述する。

(3) CO₂及びGHG排出削減の仕組み

- * 本事業におけるCO₂及びGHGの排出削減の仕組みについて具体的に記入する。本事業の対象設備以外に排出削減要因がある場合にはそれを明確に区別し記入する。定量的なデータによる説明は、< 8. 事業の効果 > に記入する。

(1) 基礎審査 8)
方法論及びモニタリング方法が適切

審査 POINT!

太陽光発電、太陽光発電+蓄電池の場合は、公募要領（別添5）の『技術採択条件』を満たすことを記入してください。

(4) リファレンスとの違い

- * 本事業で導入する新たな技術を利用した設備と、「現時点において現地で通常導入される技術のうち優れたもの」を利用した設備の性能・仕様を定量的に比較したものを記入する。当項における「リファレンス」とは、「現時点において現地で通常導入される技術のうち優れたもの」を指す。
- * 本事業で既存設備を代替して新たな技術を利用した設備を導入する場合は、参考として既存設備の性能・仕様を記載することが可能。しかし、原則として、既存設備をリファレンス設備とすることは不可。性能・仕様の比較やCO2及び温室効果ガス削減効果の算定は、既存設備と本事業で導入する新たな技術を利用した設備との比較ではなく、「現時点において現地で通常導入される技術」を利用した設備と、本事業で導入する設備とを比較したものを記入する。
- * 性能・仕様の定量的な比較に関する根拠資料を添付する。

(5) 実用化された技術であることの説明

- * カタログ、仕様書、商用運転実績の証憑、実証試験報告書、文献などを添付し、パートナー国では十分に普及していないが、国際的には実用化されており、商用運転実績のある技術であることを説明する。
- * 公募要領別添2「類似技術の分類」に該当する技術を導入する場合、どの分類に該当するかを記入する。

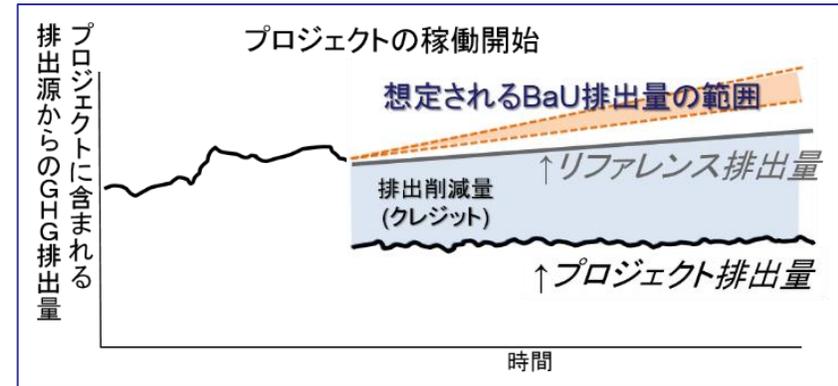
(6) パートナー国における政策との合致度

- * パートナー国で進められている省エネルギー政策や投資奨励制度等と、本事業で導入する技術との合致度について記入する。

(7) JCM パートナー国における導入技術の普及状況及び波及効果（活用・展開の見通し）

- * JCM パートナー国における市場性・波及効果、民間事業での当該技術の普及可能性、市場展開の事業施策や戦略について具体的に記入する。
- * 海外展開戦略（環境）及びインフラシステム海外展開戦略2025に沿った事業であることを記入する。

JCM方法論では、リファレンスは、BaU (Business as Usual) より効率が良いものを設定します。



(1) 基礎審査 6)

(1) 基礎審査 2) 政策 (NDC (Nationally Determined Contribution, パリ協定における温室効果ガス国別削減目標) を含む) との合致

✓ パートナー国における政策との合致度や技術の波及効果について言及する。

(1) 基礎審査 5)、7)
普及可能性及び戦略性

(1) 基礎審査 10)、11)

< 6. 導入技術・設備 >

JCMエコリース事業の場合

(1) 導入技術及び設備の概要

- * 本事業で導入する技術・設備の概要及び代替される技術・設備の概要について、図や表を用いて具体的に記入する。
- * 別紙『主要機器リスト、導入設備・機器の仕様書及びカタログ【書類番号 3-10】』を添付する。
- * 別紙『導入設備・機器の概要図、配置図及びシステム図【書類番号 3-11】』を添付する。
- * 太陽光発電の場合、または太陽光発電+蓄電池の場合は、公募要領(別添5)の技術別採択条件を満たすことを記入する。

(2) 過去の設備補助事業の承認済み方法論があることの説明

- * JCM 合同委員会で採択された方法論を活用する場合、その方法論の Methodology number を記入する。

(3) 方法論の適格性要件を満たしていることの説明

- * 提案する技術が類似技術である場合は、JCM パートナー国(事業を実施する国以外の国を含む)において採択された方法論の適格性要件に沿っていることを記入する。

(4) パートナー国における政策との合致度

- * パートナー国で進められている省エネルギー政策や投資奨励制度等と、本事業で導入する技術との合致度について記入する。

(5) JCM パートナー国における導入技術の普及状況及び波及効果(活用・展開の見通し)

- * JCM パートナー国における市場性・波及効果、民間事業での当該技術の普及可能性、市場展開の事業施策や戦略について具体的に記入する。
- * 海外展開戦略(環境)及びインフラシステム海外展開戦略2025に沿った事業であることを記入する。

審査 POINT!

太陽光発電、太陽光発電+蓄電池の場合は、公募要領(別添5)の技術採択条件を満たすことを記入してください。

POINT!

・JCMエコリースでは新たな方法論の開発は不要です。承認済み・承認申請中の方法論がある場合のみ提案可能です。

・承認済み・承認申請中の方法論を活用する場合は、その方法論のMethodology numberをご記入ください。

(1) 基礎審査 2) 政策(NDCを含む)との合致

✓ パートナー国における政策との合致度や技術の波及効果について言及する。

(1) 基礎審査 5)、7) 普及可能性及び戦略性

(1) 基礎審査 10)、11)

< 7. 補助対象経費に含まれる設備・機器、工事などの調達 >

(1) 調達先

設備 1 : [〇〇] 調達先 [国・企業名]

設備 2 : [〇〇] 調達先 [国・企業名]

工事 1 : [〇〇] 調達先 [国・企業名]

* 設備補助対象経費の中に国際コンソーシアム構成員からの製品等の調達経費（各構成員による自社調達経費を含む）が含まれる場合は、その内容について記入し、利益等排除申告書及び根拠資料（原価管理表等）を添付してください。

* 発注先企業と代表事業者ならびに共同事業者の役員、幹部職員の間には兼職者の有無と、兼職者がある場合はその詳細を明記するとともに、当該製品の調達コストが市場価格であることを証する資料相見積比較表などを添付してください。

(2) 調達経費の妥当性

* 本事業で導入する設備の対象国の市場における価格競争力や他社製品とのコスト比較を勘案した上で、調達経費の妥当性について記入する。

(1) 基礎審査 9
補助事業に要する経費の算定が適切に行われているか

- 過去に行われた同様又は類似設備の導入実績をもとに積算しているか
- 又は設計・仕様書があり、それに基づいた積算・見積もりであるか
- 人件費、旅費等の根拠が明確であり、工数・渡航回数等も適切であるか

補助対象となる設備・機器、工事などの調達先及び対象経費の妥当性を記入してください。

< 8. 事業の効果 >

(1) エネルギー起源二酸化炭素 (CO₂) 及び温室効果ガス (GHG) の排出削減総量

① CO₂年間排出削減量 : _____ [tCO₂/年]

② GHG年間排出削減量 : _____ [tCO₂/年]

③ CO₂排出削減総量 : _____ [tCO₂] = CO₂年間排出削減量 [tCO₂/年] × 法定耐用年数 [年]

④ GHG排出削減総量 : _____ [tCO₂] = GHG年間排出削減量 [tCO₂/年] × 法定耐用年数 [年]

GHG排出削減量は、CO₂換算とする。
 (記載例) CO₂排出削減総量 = 年間CO₂排出削減量 × 法定耐用年数
 = 12,340 [tCO₂/年] × 8 [年]
 = 98,720 [tCO₂]

* 当項における温室効果ガス (GHG) とは、エネルギー起源二酸化炭素 (CO₂) を含むすべての温室効果ガスを指す。
 * 別紙『GHG 排出削減量算定の根拠資料【書類番号 3-12】』を添付する。様式は、センターが別途提示する「排出削減量算定にかかるエクセルファイル (太陽光、小水力、コジェネ、冷凍機、エアコン、ボイラー)」、もしくは他の適切な方法により、事業の直接効果及び波及効果を算定したものとす。
 * JCM 合同委員会で承認された方法論を活用する場合、もしくは提案中で既に方法論案が作成されている場合、同方法論のスプレッドシートにより、排出削減量を算定した上で、同スプレッドシートを合わせて添付する。
 * 公募要領別添 2 類似技術の分類 各パートナー国における採択実績に記載の複数の技術を有する事業の場合は、技術ごとに①～④を算出する。
 * 小数点以下切り捨て。複数技術の場合は、それぞれ求めた削減量の小数点以下切り捨てた数値を合計すること。

(2) CO₂及びGHGの排出削減総量に係る費用対効果

① CO₂削減費用対効果
 _____ [円/tCO₂] = 補助金の額 [円] ÷ CO₂排出削減総量 [tCO₂]

② GHG削減費用対効果
 _____ [円/tCO₂] = 補助金の額 [円] ÷ GHG排出削減総量 [tCO₂]

* 「CO₂排出削減総量」及び「GHG排出削減総量」は(1)で記入した数値を引用する。
 * 複数の技術を有する事業の場合は、技術ごとに①～②を算出する。
 * 小数点以下切り上げ。
 (記載例) CO₂削減コスト [円/tCO₂] = 補助金の額 ÷ CO₂排出削減総量
 = 298,765,000 [円] ÷ 98,720 [tCO₂]
 = 3,027 [円/tCO₂]

法定耐用年数は、減価償却資産の耐用年数等に関する省令 (昭和 40 年大蔵省令第 15 号) を適用。

附則別表	種類	細目	耐用年数
別表〇			〇年

* 法定耐用年数に関する各項目は、「減価償却資産の耐用年数等に関する省令」の別表「法定耐用年数」を参照して記入する。
https://elaws.e-gov.go.jp/search/elawsSearch/elaws_search/lsg0500/detail?lawId=340M50000040015

(1) 基礎審査 2)

(2) 評価審査(C) GHG排出削減総量

(2) 評価審査(D) GHG排出削減総量に係る補助金の費用対効果

✓ 負荷 (生産量等) 条件と算出根拠を明示した上で、プロジェクト排出量とリファレンス排出量を同一負荷条件にて算出してください。

- 算定式を含む計算根拠や参照係数 (グリッド排出係数など) の出所も明記してください。
- CO₂排出削減量をリファレンスCO₂排出量とプロジェクトCO₂排出量との差として算出してください (BaUとプロジェクトとの差ではないことに留意)。
- 承認済み方法論は以下JCM公式サイトから閲覧可能です。
<https://www.icm.go.jp/>

※ リファレンスは「現時点において現地で導入されうる技術のうち平均より上のもの」としてください。

※ プロジェクトではリファレンスよりさらに効率の良い設備を導入するため、排出量はさらに少なくなる。

システム上の表に申請

JCMエコリース事業の場合

< 8. 事業の効果 >

(1) エネルギー起源二酸化炭素 (CO₂) 及び温室効果ガス (GHG) の排出削減総量

- ① CO₂年間排出削減量：_____ [tCO₂/年]
- ② GHG年間排出削減量：_____ [tCO₂/年]
- ③ CO₂排出削減総量：_____ [tCO₂] = CO₂年間排出削減量 [tCO₂/年] × リース期間 [年]
- ④ GHG排出削減総量：_____ [tCO₂] = GHG年間排出削減量 [tCO₂/年] × リース期間 [年]

(1) 基礎審査 2)

✓ 負荷（生産量等）条件と算出根拠を明示した上で、プロジェクト排出量とリファレンス排出量を同一負荷条件にて算出してください。

GHG削減量は、CO₂換算とする。

(記載例) CO₂排出削減総量 = 年間CO₂排出削減量 × リース期間
 = 12,340 [tCO₂/年] × 5 [年]
 = 61,700 [tCO₂]

(2) 評価審査(C) GHG排出削減総量

POINT!
 JCMエコリースではモニタリング期間は法定耐用年数ではなく、リース期間を適用します。
 リース期間は5年以上としています。

- * 当項における温室効果ガス (GHG) とは、エネルギー起源二酸化炭素 (CO₂) を含むすべての温室効果ガスを指す。
- * 別紙『GHG 排出削減量算定の根拠資料【書類番号 3-12】』を添付する。様式は、センターが別途提示する「排出削減量算定にかかるエクセルファイル (太陽光、小水力、コージェネ、冷凍機、エアコン、ボイラー)」、もしくは他の適切な方法により、事業の直接効果及び波及効果を算定したものとす。
- * JCM 合同委員会で承認された方法論を活用する場合、もしくは提案中で既に方法論案が作成されている場合、同方法論のスプレッドシートにより、排出削減量を算定した上で、同スプレッドシートを合わせて添付する。
- * 公募要領別添 2 類似技術の分類 各パートナー国における採択実績に記載の複数の技術を有する事業の場合は、技術ごとに①～④を算出する。
- * 小数点以下切り捨て。複数技術の場合は、それぞれ求めた削減量の小数点以下切り捨てた数値を合計すること。

(2) 評価審査(D) GHG排出削減総量に係る補助金の費用対効果

(2) CO₂及びGHGの排出削減総量に係る費用対効果

- ① CO₂削減費用対効果
 _____ [円/tCO₂] = 補助金の額 [円] ÷ CO₂排出削減総量 [tCO₂]
- ② GHG削減費用対効果
 _____ [円/tCO₂] = 補助金の額 [円] ÷ GHG排出削減総量 [tCO₂]

- * 「CO₂排出削減総量」及び「GHG排出削減総量」は(1)で記入した数値を引用する。
- * 複数の技術を有する事業の場合は、技術ごとに①～②を算出する。
- * 小数点以下切り上げ。

(記載例) CO₂削減コスト [円/tCO₂] = 補助金の額 ÷ CO₂排出削減総量
 = 198,765,000 [円] ÷ 61,700 [tCO₂]
 = 3,221 [円/tCO₂]

- 算定式を含む計算根拠や参照係数 (グリッド排出係数など) の出所も明記してください。
- CO₂排出削減量をリファレンスCO₂排出量とプロジェクトCO₂排出量との差として算出してください (BaUとプロジェクトとの差ではないことに留意)。
- 承認済み方法論は以下JCM公式サイトから閲覧可能です。
<https://www.icm.go.jp/>

※ リファレンスは「現時点において現地で導入されうる技術のうち平均より上のもの」としてください。

※ プロジェクトではリファレンスよりさらに効率の良い設備を導入するため、排出量はさらに少なくなる。

別表二 機械及び装置の耐用年数表 ※ 減価償却資産の耐用年数等に関する省令（昭和四十年三月三十一日大蔵省令第十五号）

23	輸送用機械器具製造業用設備	-	9
31	電気業用設備	電気事業用水力発電設備	22
		その他の水力発電設備	20
		汽力発電設備	15
		内燃力又はガスタービン発電設備	15
		送電又は電気事業用変電若しくは配電設備 需要者用計器 柱上変圧器 その他の設備	15 18 22
		鉄道又は軌道事業用変電設備	15
		その他の設備 主として金属製のもの その他のもの	17 8
47	宿泊業用設備		10

—法定耐用年数の判定手順—

- 法定耐用年数の参照先**
 「減価償却資産の耐用年数等に関する省令（昭和四十年三月三十一日大蔵省令第十五号）の別表第二『31 電気業用設備 電気事業用水力発電設備 22年』を適用」のように、参照箇所と合せて記載してください。
- 導入目的の違いによる判定**
 同じ設備であっても下記のように設備を使用する業務用途によって年数が変わる場合があります。
 （例）太陽光発電設備の場合
 - 売電が主であれば、電気業用設備（その他の設備）となり 17年
 - 自動車工場での自家消費が主であれば、輸送用機械器具製造業用設備となり、 9年
 - ホテルでの自家消費が主であれば、宿泊業用設備となり 10年

< 9. 方法論 >

(1) 方法論 (該当箇所を○で囲み説明を加える)

- ① JCM 承認済み方法論 (Approved methodology) を適用 Methodology number : AM
- ② JCM 提案方法論 (Proposed methodology) を適用 Methodology number : PM
- ③ 適用可能な JCM 方法論なし

* JCM 合同委員会で承認された方法論を適用する場合、その方法論の Methodology number を記入する。

(2) 類似技術に関する方法論の適格性要件を満たすことの説明

- * 提案する技術が類似技術である場合は、JCM パートナー国 (事業を実施する国以外の国を含む) において承認された方法論の適格性要件に沿っていることを記入する。方法論の Methodology number の記載だけでなく、適格性要件を列記し、要件を満たすことを説明する。
- * 提案する技術が類似技術でない場合は、想定される適格性要件を説明する。例) 撤去設備に 含まれる有害物質の処理方法など
- * モニタリング項目について、JCM 方法論 : の Monitoring Plan Sheet に示すモニタリング方法「Measurement methods and procedure」を満たすことを説明する。

JCM合同委員会で承認された方法論以外の方法論を適用する場合、方法論案やその開発状況について説明を加えてください。
JCMにおいて承認された方法論がない場合には、GHG排出削減量の算定に必要なリファレンス排出量及びプロジェクト排出量を保守的に算定すること。

(1) 基礎審査 8)

- ・提案する技術が過去の設備補助事業で採択実績のあるものと類似の技術である場合は、JCMパートナー国において承認された方法論の適格性要件に沿っているか。

< 10. 事業実施スケジュール >

- * 事業の実施スケジュールの概略を当欄に記入するとともに、詳細な事業実施スケジュールを【書類番号 3-15】として添付する。
- * 事業期間が複数年度にわたる場合には、全工程を含めた実施スケジュールの概略を記入する。事業内容を元に、何をどこまで実施するのかを明確に記入する。
- * 設備の発注、製造、輸送、機器据付工事、試運転等の主要スケジュールについて、共同事業者と十分に協議した上で実現可能なスケジュールを作成する。
- * 設備の発注に融資契約締結や許認可取得などの条件があり、支払に性能試験や許認可取得などの条件がある場合は、その関係が分かるように整理する。
- * 設備の導入に関する実施スケジュールだけでなく、MRV の実施スケジュールも合わせて記入する。(少なくとも、モニタリング開始までのスケジュールを記入する)
- * **事業の完了は試運転及び補助対象経費の支払が完了した時点になることを考慮の上、スケジュールを記入する。**

公募要領 別添3「類似技術の分類」により相当する技術を特定し、「類似技術に関する方法論の適格性要件」により要件に沿った提案であることを示してください。

POINT!

事業完了 = 試運転及び補助対象経費の支払完了になります。

【応募様式3-16】Project Idea Note

公募提案書（様式 3-0b）

公募提案書（様式 3-0b）

公募提案書（様式 3-0b）

公募提案書（様式 3-0b）

Project Idea Note for the JCM Model Project（記入指針）

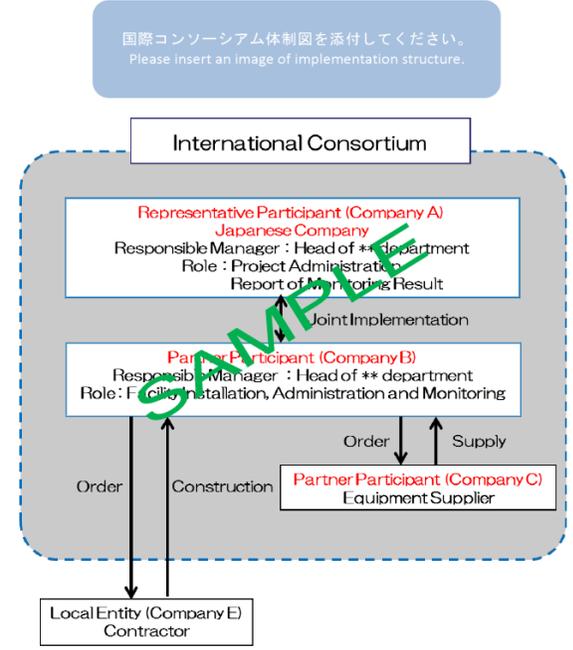
Document release date	DD/MM/YYYY * 公募提案書の提出日或いはそれ以前
Title of the proposed project (should be self-explanatory and clearly indicate the activity leading to emissions reduction)	* 事業者名（公募提案書の英語名称と統一すること）
Host country	* パートナー国
The main contact for the project (for identification of the person in charge for the project in terms of communication)	Name of the contact entity (company, etc.): * 事業者名 Address of the contact entity: * 所在地 Website of the contact entity: * Web アドレス Name and position of the main contact person in the entity: * 事業者の窓口担当者の氏名及び役職 E-mail of the main contact person: * 窓口担当者の E メールアドレス Phone number of the main contact person: * 窓口担当者の電話番号
Japanese participant[s] for the project and their roles in the project (if possible, please indicate the contact person of each entity involved in the project)	Name of the entity (company, etc.): * 事業者名 Roles of the entity in the project: * 事業者の役割（事業の実施責任、MRV の報告等） Address of the entity: * 所在地 Website of the entity: * Web アドレス (Name and position of the contact person in the entity: * 事業者の担当者の氏名及び役職) (E-mail of the contact person: * 担当者の E メールアドレス) (Phone number of the contact person: * 担当者の電話番号) * 複数社の場合は以下に記入 Name of the entity (company, etc.): Roles of the entity in the project: Address of the entity: Website of the entity: (Name and position of the contact person in the entity:) (E-mail of the contact person:) (Phone number of the contact person:) [please add other entities if necessary]
Participant[s] of host country for the project and their roles in the	Name of the entity (company, etc.): * 事業者名

project (if possible, please indicate the contact person of each entity involved in the project)	Roles of the entity in the project: * 事業者の役割（事業の実施責任、MRV の報告等） Address of the entity: * 所在地 Website of the entity: * Web アドレス (Name and position of the contact person in the entity: * 事業者の担当者の氏名及び役職) (E-mail of the contact person: * 担当者の E メールアドレス) (Phone number of the contact person: * 担当者の電話番号) Name of the entity (company, etc.): Roles of the entity in the project: Address of the entity: Website of the entity: (Name and position of the contact person in the entity:) (E-mail of the contact person:) (Phone number of the contact person:) [please add other entities if necessary]
Summary of the project Example: ➢ Objective of the project ➢ Location of the project ➢ Scale of investment including planned source of investment ➢ Technology[ies] to be adopted for the project, and brief description of the technology[ies] ➢ Project implementation scheme, and role of each participant ➢ Status and progress of the project	* 事業目的 * 事業の実施場所 * 投資金額と投資元（資金調達先） * 導入技術及び設備の概要 * 事業の実施体制と役割分担 * 事業の進捗状況（許認可の取得状況等）
Rough estimation of expected GHG emission reductions (unit: tCO ₂ /year)	* 年間の想定 GHG 排出削減量（GHG は CO ₂ 換算とする）
Expected schedule up to the EPC completion and the registration under the JCM	* 設置工事完了と JCM プロジェクト登録までの実施スケジュール

Capacity building activity for the participant[s] of host country (cf. training on operation and maintenance of newly installed equipment, information sharing among stakeholders, organizing workshops, and/or study tour to Japan)

* パートナー国の共同事業者に対するキャパシティビルディング（設備のメンテナンスに関する教育、情報共有のためのワークショップ開催など）

✓ 青文字の記入指針は、提出時には消去してください



- 応募された事業の概要をパートナー国と情報共有するための資料です（パートナー国から本様式について寄せられる質問に対して、回答の作成を依頼することがあります）。
- A4用紙4枚以内（体制図含む）にプロジェクト概要を英文でまとめてください。
- 適宜、図表を挿入してください。
- カッコ内（ ）は可能な範囲で記入してください。

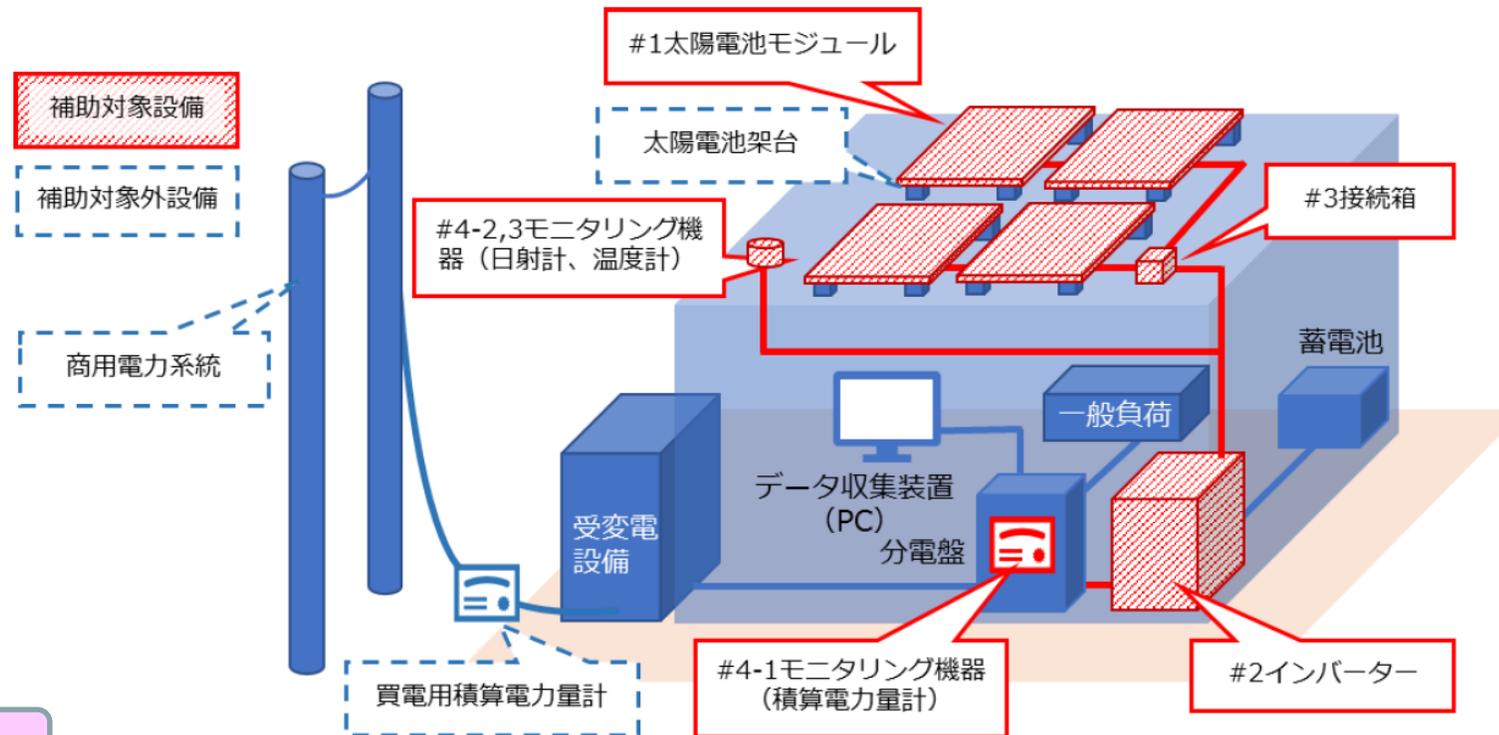
3-10-01 主要機器リスト の例 (任意様式)

ID	機器名称 (日本語名)	仕様・型番・容量等	数量	参照資料 (カタログ・仕様書、図面及び見積書)
#1	太陽電池モジュール	●●社製 ABC350 公称最大出力：350W	3,000 枚	3-10-01 太陽電池カタログ 3-11-01 概要図、3-11-02 配置図、3-11-03 システム図、4-02-01 見積書
#2	インバーター	●●社製 最大 DC 入力：713kW 最大 AC 出力：700kW	3 台	3-10-02 インバーター仕様書 3-11-01 概要図、3-11-02 配置図、3-11-03 システム図、4-02-01 見積書
#3	接続箱	●●社製 AAA001	6 台	3-10-03 接続箱仕様書 3-11-01 概要図、3-11-02 配置図、3-11-03 システム図、4-02-01 見積書
4	モニタリング機器			
#4-1	積算電力量計	●●社製 XXX001	1 台	3-13-01 積算電力量計カタログ 3-11-01 概要図、3-11-02 配置図、3-14 モニタリングに関するシステム図、4-02-01 見積書
#4-2	日射計	●●社製 YYY001	1 台	3-13-02 日射計カタログ 3-11-01 概要図、3-11-02 配置図、3-14 モニタリングに関するシステム図、4-02-01 見積書
#4-3	温度計	●●社製 ZZZ001	1 台	3-13-03 温度計カタログ 3-11-01 概要図、3-11-02 配置図、3-14 モニタリングに関するシステム図、4-02-01 見積書

Point!

- 本事業で導入する補助対象設備・機器（一品、一組又は一式の価格が50万円以上のもの及びモニタリング機器）を網羅してください。
- 補助対象外の機器は必須ではないが、補助対象のみの機器リストでは事業内容が把握しにくい場合は、「対象/対象外」の列を追加して整理したり、対象外の機器リストを下に追加することは妨げません。
- MRVに必要なモニタリング機器の記載は必須です。
- 主要機器リスト、概要図、配置図、システム図、見積書で同じID及び機器名称を用いてください。
- 参照資料・備考で主要機器とカタログ・仕様書との紐付けを明らかにすること。必要に応じて使用目的も記載してください。
- リストの順序は実施計画書や見積書内訳等を参考に、事業内容が把握しやすいような順序にしてください。
- リストに仕様書の全ての情報を転記する必要はなく、詳細な情報は、仕様書・カタログで確認できれば良いです。

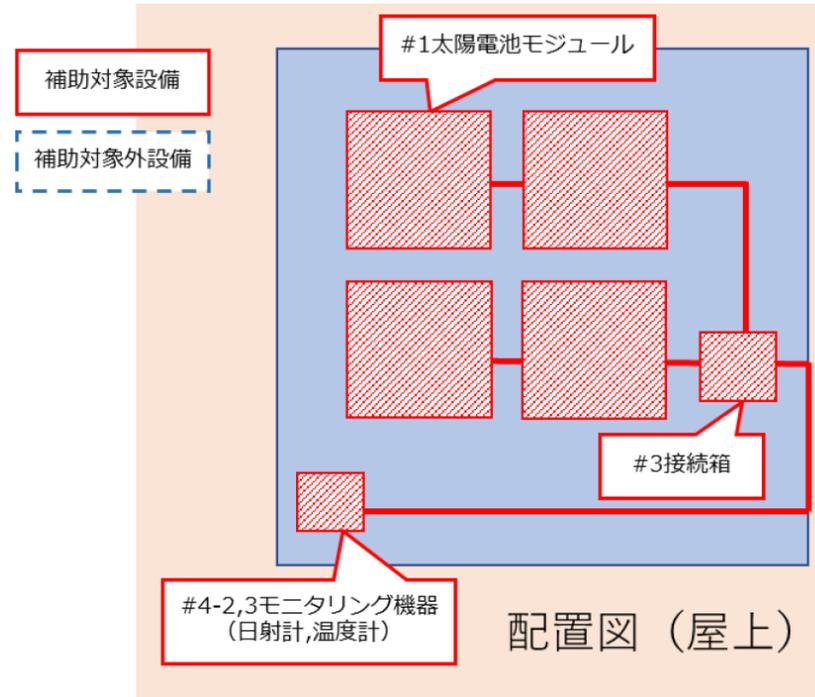
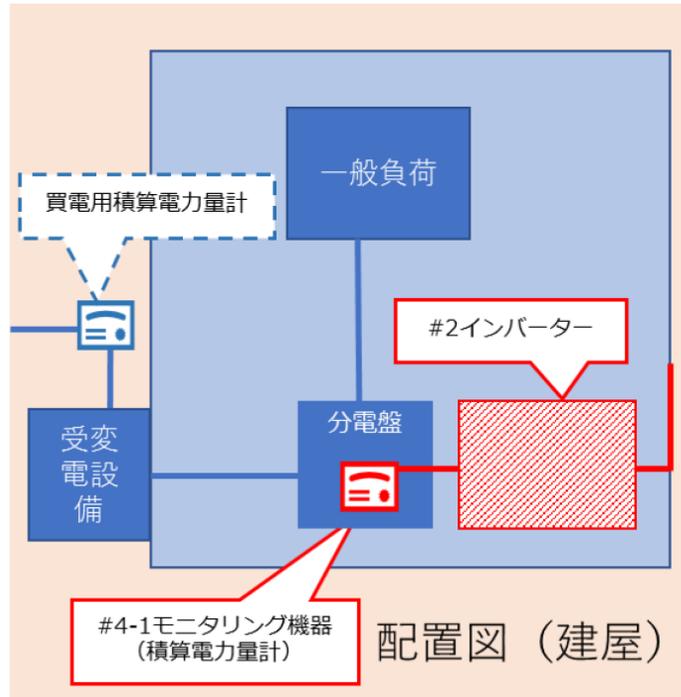
3-11-01 概要図 の例 (任意様式)



Point!

- 事業の概要 (GHG排出削減の仕組み) を説明するため、事業実施にあたり作成した模式図や概略図をベースに、GHG排出削減の仕組みを示すとともに、補助対象設備・機器を枠囲いや塗りつぶし等で分かりやすくマーキングしてください。
- 主要機器リストに掲げた補助対象設備・機器をすべて網羅してください。
- 主要機器リストの機器IDを記載して、機器名称を併記してください。
- 複数の実施場所で設備の構成が同じ事業を実施する場合は、概要図は一つで構いません。

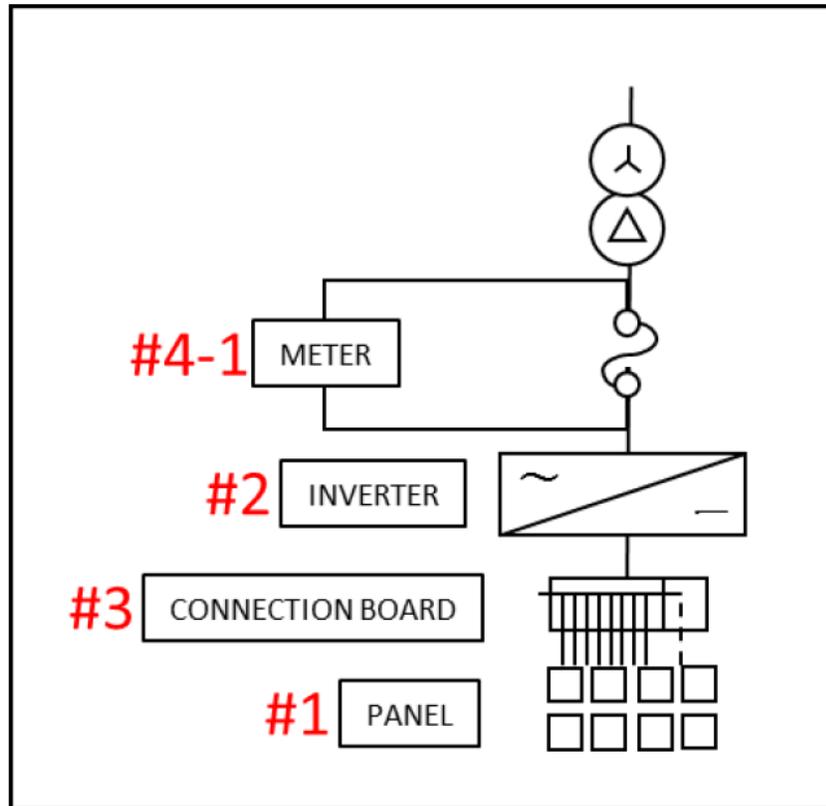
3-11-02 配置図 の例 (任意様式)



Point!

- 補助対象設備・機器を事業実施場所のどこに配置するかを説明するため、事業実施にあたり作成したレイアウト図、平面図、立面図をベースに、補助対象設備・機器を枠囲いや塗りつぶし等で分かりやすくマーキングしてください。
- 工事費の計上有無に関わらず、配置図(全体、各設置箇所)の両方があれば理想的)を提出してください。
- 主要機器リストに掲げた補助対象設備・機器をすべて網羅して、主要機器リストの機器ID、機器の名称を記載ください。
- 補助対象設備が縦に重なるなど、平面図だけで説明が困難な場合は、立面図も提出ください。
- 太陽光電池モジュールのように補助対象機器の台数が多く、複数の配置図や建屋に分かれている場合、図ごとに台数がわかるように数量を記載し、拡大図にて全体像を把握できるようにしてください。

3-11-03 システム図 の例 (任意様式)



Point!

- 事業実施に当たり作成した単線結線図、フロー図等をベースに、補助対象設備・機器を枠囲いや塗りつぶし等で分かりやすくマーキングしてください。
- 主要機器リストの機器 ID、機器の名称を併記してください。
- 流体のフローを示す結線等は、流体名称や方向を矢印などで示す等、必要に応じて名称や矢印 (例.冷水→) を追加してください。

補助対象経費および補助対象外経費

	補助対象経費	補助対象外経費
	<p>補助対象設備（エネルギー起源 CO2を含む GHG 排出削減に直接寄与する設備）の整備に係る以下の経費が対象であり、当該事業で使用されたことを証明できるものに限ります。各費目の内容については、別表1に定めるとおりとします。</p>	<p>以下の費用は補助対象外となるものの事例です。</p>
設備補助事業	<ul style="list-style-type: none"> ① 本工事費 ② 付帯工事費 ③ 機械器具費 ④ 測量及試験費 ⑤ 設備費（モニタリング機器含む） ⑥ 事務費 ⑦ その他必要な経費でセンターが承認するもの 	<ul style="list-style-type: none"> ① 既存設備の撤去費（撤去費に係る諸経費も含む） ② 導入設備の保守、非常用設備、安全・衛生、防火・防犯に要する機器及び消耗品 ③ 土木工事費、建屋等の建設費（エネルギー起源 CO2排出削減に直接寄与する構造物を除く） ④ 既存設備の更新によって機能を新設時の状態に戻すような「単なる機能回復」に係る費用 ⑤ 予備品 ⑥ 本補助事業に係る報告書等の作成や現地に要する費用 ⑦ 為替予約手数料、銀行振込手数料 ⑧ 土地取得費
JCMエコリース事業	<p>リース導入費（補助対象となる設備費とそれに対応するリース金利の合計）</p>	<p>リース残価</p>

POINT!
 JCMエコリース事業では導入される設備及びそれに対応するリース金利が補助対象です。

補助対象経費および補助対象外経費

—経理処理の基本ルール—

- 補助金等の経理処理にあたっては、補助金等の交付の対象となる経費を明確に区別して処理することとなります。また、適切な経理処理を行うための各種の制限や、取得した財産の管理方法等、通常の経理処理・業務管理とは異なる部分があるので留意してください。
- また、検査等により経費の虚偽申告や過大請求等による補助金等の受給等の不正行為が判明した場合には、交付決定の取消、補助金等の全部又は一部の返還（不交付）命令、加算金の納付、不正内容の公表、補助金等の交付停止措置、刑事告訴等の処分が科される場合がありますので適正な経理処理を常に心がけてください。
- 補助金の額は、補助対象経費に補助率を乗じて決定されます。補助金の支払いは、交付決定時における補助金の額を上限とするとともに補助率についても交付決定時の補助率となります。
- 補助対象は交付決定時において決定した対象範囲に限られます。

様式第3(第7条関係)

GEC 第 号

令和4年度から令和6年度二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金
(二国間クレジット制度資金支援事業のうち設備補助事業)
交付決定通知書

補助事業者 殿

202X年 月 日付けで交付申請のあった令和4年度から令和6年度二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金(二国間クレジット制度資金支援事業のうち設備補助事業)については、令和4年度から令和6年度二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金(二国間クレジット制度資金支援事業のうち設備補助事業)交付規程(20年 月 日 GEC 第 号。以下「交付規程」という。)第7条第1項の規定により、下記のとおり交付することを決定したので、通知する。

202X年 月 日

公益財団法人地球環境センター 理事長 ○○ ○○

記

1 国名及び事業名

2 補助金の交付の対象となる事業及びその内容は、202X年 月 日付け交付申請書のとおりである。

3 補助基本額、補助金の額及び補助率は次のとおりである。ただし、事業の内容を変更する場合において、補助基本額、補助金の額及び補助率が変更されるときは、別に通知するところによる。

補助基本額 金	円	補助金の額 金	円
202X年度	補助基本額 金	円	補助金の額 金 円
202Y年度	補助基本額 金	円	補助金の額 金 円
202Z年度	補助基本額 金	円	補助金の額 金 円
補助率	%		

4 事業に要する経費の区分ごとの配分率は、交付申請書の記載のとおりである。

5 交付を行う補助金の額は、この交付決定額を上限とする。

6 補助事業者は、補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律(昭和30年法律第101号)に定める予算の執行の適正化に関する法律施行令(昭和30年政令第255号)、二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金(二国間クレジット制度資金支援事業のうち設備補助事業)交付要綱(平成28年4月1日付け環地温発第16040125号)、二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金(二国間クレジット制度資金支援事業のうち設備補助事業)実施要領(平成28年4月1日付け環地温発第16040126号)及び交付規程に従わなければならない。

7 この交付決定に対し不服があるとき、申請の取り下げをすることのできる期限は交付決定の通知の日から15日以内とする。

8 補助事業における仕入れに係る消費税等については、交付規程第4条第2項ただし書の定めるところにより算定されている場合は、補助金の額の確定又は消費税の申告後において精算減額又は返還を行うこととする。

9 本件責任者及び担当者の氏名、連絡先等

(1) 責任者の所属部署・職名・氏名

(2) 担当者の所属部署・職名・氏名

(3) 連絡先(電話番号・Eメールアドレス)

- ・補助金交付額は、交付決定通知書の補助基本額及び補助金の額を上限とします。
- ・交付決定通知書の補助金の額は、支払いを保証する金額ではありません。補助金交付額は、補助対象経費実支出額をもとに決定されます。

(例)

交付決定時の補助基本額: 100,000,000円
 補助金の額: 50,000,000円(補助率50%)
 の場合において、事業完了時に
 補助対象経費実支出額: 90,000,000円
 であった場合、
補助金交付額: 45,000,000円(補助率50%)
 となります。

- ・補助率は、交付決定時における補助率が上限になります。

【応募様式4】経費内訳

システム入力後のエクセル出力例

二国間クレジット制度資金支援事業のうち設備補助事業に要する経費内訳

事業者名：ABCエコロジー株式会社

事業名：国際空港グリーン化事業

パートナー国名： ID_インドネシア

1. 所要経費

(1)総事業費 ¥350,000,000	(2)寄付金その他の収入 ¥0	(3)差引額(1)-(2) ¥350,000,000	(4)補助対象経費支出予定額 ¥236,070,988
(5)基準額	(6)選定額 (4)と(5)を比較して少ない方の額	(7)補助基本額 (3)と(4)を比較して少ない方の額	(8)補助金の額 (7)×補助率(千円未満切捨て) ¥118,035,000 補助率 50.00%

2. 補助対象経費支出予定額内訳

経費区分	費目	執行年度 予算年度	執行1年目	執行2年目	執行3年目	合計	備考
工事費	本工事費	202X	12,723,830	0	0	12,723,830	
工事費	本工事費	202Y	0	31809575	0	31,809,575	
工事費	本工事費	202Z	0	0	19085745	19,085,745	
工事費	測量及試験費(労務費)	202X	2,116,712	0	0	2,116,712	
工事費	測量及試験費(労務費)	202Y	0	1339780	0	1,339,780	
工事費	測量及試験費(労務費)	202Z	0	0	3846440	3,846,440	
工事費	測量及試験費(旅費)	202X	526,221	0	0	526,221	<調達経費の妥当性>
工事費	測量及試験費(旅費)	202Y	0	325814	0	325,814	4-02 集計表、4-03 構算表、4-
工事費	測量及試験費(旅費)	202Z	0	0	2084070	2,084,070	04 見積書、4-05 為替レート
設備費	設備費	202X	106,000,000	0	0	106,000,000	(202X年○月△日 TTS
設備費	設備費	202Y	0	55000000	0	55,000,000	1US\$=115.00円)
事務費	事務費(労務費)	202X	268,940	0	0	268,940	
事務費	事務費(労務費)	202Y	0	238204	0	238,204	
事務費	事務費(労務費)	202Z	0	0	480250	480,250	
事務費	事務費(旅費)	202Z	0	0	225407	225,407	

3. 補助金の額

項目	説明	執行年度 予算年度	執行1年目	執行2年目	執行3年目	合計	備考
補助基本額	補助対象経費支出予定額	202X	121,635,703	0	0	121,635,703	
		202Y	0	88,713,373	0	88,713,373	
		202Z	0	0	25,721,912	25,721,912	
		合計	121,635,703	88,713,373	25,721,912	236,070,988	
補助金の額	補助基本額×補助率	202X	60,817,851	0	0	60,817,851	
		202Y	0	44,356,686	0	44,356,686	
		202Z	0	0	12,860,957	12,860,957	
		合計	60,817,851	44,356,686	12,860,957	118,035,494	
補助金の額(合計のみ千円未満切捨)						118,035,000	

○基本原則

- 計算結果の端数(小数点以下)は切捨てとする(消費税割戻し計算を除く)。
- 消費税は含めない(消費税を含む国内交通費等については、1.1で除外した額の小数点以下を切り上げて、消費税抜きの金額を算出)。
- 現地付加価値税等(VATなど)も原則として含めない(還付や仕入税額控除にかかる現地制度の調査結果をセンターに提示の上で、必要と認められる場合を除く)。
- 複数技術を導入する場合は、技術毎に補助率の上限が決まります。各技術で分けて経費内訳を作成して、全体をまとめた経費内訳も作成してください(例として、2つの技術を導入する場合、技術毎で各1枚、全体で1枚、合計3枚分の経費内訳が必要です)。

①所要経費の内訳

- 総事業費：補助対象でない事業費を含む金額を記載する。
- 寄付金その他の収入：応募事業に対する、他の団体等からの寄付金や日本国外の行政機関等からの補助金などの収入を記載する。
- 補助対象経費支出予定額：補助対象経費の総額を記載。(1)と(4)に差がある場合は、その概要を別紙にて説明する。
- 基準額：応募段階では空欄。交付申請時に入力が必要。
- 選定額：応募段階では空欄。交付申請時に自動計算。
- 補助基本額：寄付金収入がある場合を除き、補助対象経費支出予定額と同一。
- 補助金の額：「(7)補助基本額」に補助率(%で記入)を乗じた額(千円未満切捨)。補助率は、小数点以下2桁までとしてください。小数第3位以下は切り捨ててください。

②経費区分・費目

- 公募要領『別表1』の経費区分・費目(第2欄)に従って記載する。細分は記載不要。
- 1つの見積書に複数の区分又は費目が含まれている場合は、区分又は費目ごとに分ける必要はない。

例：太陽光発電EPC契約→工事費/本工事費に一括計上

【応募様式4】経費内訳

システム入力後のエクセル出力例

二国間クレジット制度資金支援事業のうち設備補助事業に要する経費内訳

事業者名：ABCエコロジ株式会社

事業名：国際空港グリーン化事業

パートナー国名： ID_インドネシア

1.所要経費				
(1)総事業費	(2)寄付金その他の収入	(3)差引額(1)-(2)	(4)補助対象経費支出予定額	
¥350,000,000	¥0	¥350,000,000	¥236,070,988	
(5)基準額	(6)選定額 (4)と(5)を比較して少ない方の額	(7)補助基本額 (3)と(4)を比較して少ない方の額	(8)補助金の額 (7)×補助率（千円未満切捨て）	
		¥236,070,988	¥118,035,000 補助率 50.00%	

2.補助対象経費支出予定額内訳

経費区分	費目	執行年度 予算年度	執行1年目	執行2年目	執行3年目	合計	備考
工事費	本工事費	202X	12,723,830	0	0	12,723,830	
工事費	本工事費	202Y	0	31809575	0	31,809,575	
工事費	本工事費	202Z	0	0	19085745	19,085,745	
工事費	測量及試験費(労務費)	202X	2,116,712	0	0	2,116,712	
工事費	測量及試験費(労務費)	202Y	0	1339780	0	1,339,780	
工事費	測量及試験費(労務費)	202Z	0	0	3846440	3,846,440	
工事費	測量及試験費(旅費)	202X	526,221	0	0	526,221	<調達経費の妥当性>
工事費	測量及試験費(旅費)	202Y	0	325814	0	325,814	4-02 集計表、4-03 精算表、4-
工事費	測量及試験費(旅費)	202Z	0	0	2084070	2,084,070	04 見積書、4-05 為替レート
設備費	設備費	202X	106,000,000	0	0	106,000,000	(202X年○月△日 TTS
設備費	設備費	202Y	0	55000000	0	55,000,000	1US\$=115.00円)
事務費	事務費(労務費)	202X	268,940	0	0	268,940	
事務費	事務費(労務費)	202Y	0	238204	0	238,204	
事務費	事務費(労務費)	202Z	0	0	480250	480,250	
事務費	事務費(旅費)	202Z	0	0	225407	225,407	

3.補助金の額

項目	説明	執行年度 予算年度	執行1年目	執行2年目	執行3年目	合計	備考
補助基本額	補助対象経費支出予定額	202X	121,635,703	0	0	121,635,703	
		202Y	0	88,713,373	0	88,713,373	
		202Z	0	0	25,721,912	25,721,912	
		合計	121,635,703	88,713,373	25,721,912	236,070,988	
補助金の額	補助基本額×補助率	202X	60,817,851	0	0	60,817,851	
		202Y	0	44,356,686	0	44,356,686	
		202Z	0	0	12,860,957	12,860,957	
		合計	60,817,851	44,356,686	12,860,957	118,035,494	
					補助金の額（合計のみ千円未満切捨）	118,035,000	

③積算内訳

・見積書等、根拠資料別にわかりやすく記載。・工事費及び設備費に対する事務費の比率の上限（4.5%～6.5%：交付規程_別表1/公募要領_別表2）に注意

ex. 工事費及び設備費が1億2000万円の事業の場合、事務費上限額は以下のように、

$$\text{①} + \text{②} + \text{③} = 6,900,000 \text{円と算出される。}$$

- ① 5,000万 × 6.5% = 3,250,000円
- ② (1億-5,000万) × 5.5% = 2,750,000円
- ③ (1億2,000万-1億) × 4.5% = 900,000円

④換算レート

外貨から日本円への換算の際は、適用する公表レート（原則として4月2日以降のTTS）を明記し、その根拠資料を添付（精算の際は、支払い日の実レートで円換算する）。

* 交付申請時と支払い時の為替レートが異なることにより、補助金請求金額が交付決定額を超えた場合の超過部分の請求は認められません。為替リスクヘッジは事業者各自でお願い致します。

⑤年度別基準額

応募段階では、空欄とする。

※本欄は採択内示後の交付申請において、内示通知に記載されている「国庫補助基準額」と交付申請時の「小計（補助対象経費支出予定額）」を比較して低額の方を「年度別補助基本額」として定めるための欄。

⑥年度別補助基本額×補助率【3ヵ年案件の場合】

1年目と2年目は「年度別補助基本額×補助率」とする。最終年度の3年目は、合計から1年目と2年目を引く

た額とすることにより合計額と年度別内訳の合計額を一致させる。

⑦年度別補助金の額（千円未満切捨て）

1年目、2年目及び3年目の補助金の額の合計額を千円未満切捨てた金額とする。

同一技術を複数のサイトで実施する場合の留意点：

共同事業者ごとに費用対効果を確認するため、共同事業者ごとの経費内訳をシステム入力と別に準備をお願いします。

【応募様式4】経費内訳

複数技術の全体の経費内訳について (注意点)

- 補助基本額、年度別補助基本額 × 補助率は、(様式のエクセルの計算式は使用せず、) **技術毎の経費内訳をもとに足し合わせた資料をエクセルで準備してください。**
- 全体の経費内訳のシートに補助率は記載不要です(各技術の経費内訳のシート(エクセル出力)に補助率が記載されていることを確認ください)。

計算の例

太陽光発電 (補助率30%)

			執行1年目	執行2年目	執行3年目	合計
補助基本額	補助対象経費支出予定額	合計	0	5,000,000	5,000,000	10,000,000
補助金の額	補助基本額×補助率	合計	0	1,500,000	1,500,000	3,000,000

バイオマスボイラー(補助率40%)

			執行1年目	執行2年目	執行3年目	合計
補助基本額	補助対象経費支出予定額	合計	10,000,000	10,000,000	25,000,000	45,000,000
補助金の額	補助基本額×補助率	合計	4,000,000	4,000,000	10,000,000	18,000,000

全体

			執行1年目	執行2年目	執行3年目	合計
補助基本額	補助対象経費支出予定額	総計	10,000,000	15,000,000	30,000,000	55,000,000
補助金の額	補助基本額×補助率	総計	4,000,000	5,500,000	11,500,000	21,000,000
補助金の額	補助基本額×補助率	総計	4,000,000	5,500,000	11,500,000	21,000,000

太字の補助金の額合計のみ千円未満切捨

二国間クレジット制度資金支援事業のうち設備補助事業に要する経費内訳

事業者名: ABCエコロジー株式会社
事業名: 国際空港グリーン化事業
パートナー国名: ID_インドネシア

補助率は
記載不要

1.所要経費			
(1)総事業費 ¥350,000,000	(2)寄付金その他の収入 ¥0	(3)差引額(1)-(2) ¥350,000,000	(4)補助対象経費支出予定額 ¥55,000,000
(5)基準額	(6)選定額 (4)と(5)を比較して少ない方の額	(7)補助基本額 (3)と(4)を比較して少ない方の額 ¥55,000,000	(8)補助金の額 (7)×補助率(千円未満切捨) 補助率 ¥21,000,000

2.補助対象経費支出予定額内訳

経費区分	費目	執行年度 予算年度	執行1年目	執行2年目	執行3年目	合計	備考
工事費 設備費						15,000,000	
						40,000,000	

工事費、設備費、事務費に分けて、
それぞれの合計金額のみ記載(費目は記載不要)

3.補助金の額

項目	説明	執行年度 予算年度	執行1年目	執行2年目	執行3年目	合計	備考
補助基本額	補助対象経費支出予定額	202X	10,000,000	0	0	10,000,000	
		202Y	0	15,000,000	0	15,000,000	
		202Z	0	0	30,000,000	30,000,000	
		合計	10,000,000	15,000,000	30,000,000	55,000,000	
補助金の額	補助基本額×補助率	202X	4,000,000	0	0	4,000,000	
		202Y	0	5,500,000	0	5,500,000	
		202Z	0	0	11,500,000	11,500,000	
		合計	4,000,000	5,500,000	11,500,000	21,000,000	
	補助金の額(合計のみ千円未満切捨)					21,000,000	

：技術毎の経費内訳を統合して足し算

JCMエコリース事業の場合

システム入力後のエクセル出力例

二国間クレジット制度資金支援事業のうち設備補助事業に要する経費内訳

事業者名: ABCエコロジー株式会社
事業名: 国際空港グリーン化事業
パートナー国名: ID_インドネシア

1.所要経費			
(1)総事業費	(2)寄付金その他の収入	(3)差引額(1)-(2)	(4)補助対象経費支出予定額
¥300,000,000	¥0	¥300,000,000	¥125,021,400
(5)基準額	(6)選定額 (4)と(5)を比較して少ない方の額	(7)補助基本額 (3)と(4)を比較して少ない方の額	(8)補助金の額 (7)×補助率(千円未満切捨て)
		¥125,021,400	¥12,502,000 補助率 10.00%

2.補助対象経費支出予定額内訳

経費区分	費目	執行年度 予算年度	執行1年目	執行2年目	執行3年目	合計	備考
設備費	リース導入費(設備費)	202Z	0	0	100000000	100,000,000	
設備費	リース導入費(リース金利)	202Z	0	0	25021400	25,021,400	

項目	説明	執行年度 予算年度	執行1年目	執行2年目	執行3年目	合計	備考
補助基本額	補助対象経費支出予定額	202X	0	0	0	0	
		202Y	0	0	0	0	
		202Z	0	0	125,021,400	125,021,400	
		合計	0	0	125,021,400	125,021,400	
補助金の額	補助基本額×補助率	202X	0	0	0	0	
		202Y	0	0	0	0	
		202Z	0	0	12,502,140	12,502,140	
		合計	0	0	12,502,140	12,502,140	
			補助金の額(合計のみ千円未満切捨て)			12,502,000	

○基本原則

設備補助事業と同じ。

①所要経費の内訳

設備補助事業と同じ。

②経費区分・費目 Point!

- リース導入費とし、内訳は設備費とリース金利とする。
- 最終年度に予算を計上してください。各年度で概算払はなく、最終年度の精算払のみになります。
- リース契約が複数ある場合、契約ごとに設備導入完了時に概算払いを行うことができます。その場合は、契約ごとの経費内訳をシステム入力と別に提出いただきます。

経費内訳 積算根拠資料 (見積書)

① (工事発注会社名) 様

② 見積書③

見積書(例)

③ (工事施行会社名)
(担当部署)
(担当者)
(連絡先)

押印または
サイン

④ 見積書作成日: 202X年8月1日

見積有効期限: 202Y年1月30日まで

(条件等) .

⑤
(インドネシア語)

作業名・材料名	単価	量	単位	⑨ 金額	備考
⑥ 既設撤去	70,000,000	1	式	70,000,000	補助対象外 70,000,000
ボイラ	500,000,000	1	式	500,000,000	
⑦ 設計費	1,000,000	150	m ²	150,000,000	補助対象 720,000,000
製作費	60,000,000	1	式	60,000,000	
配管工事	50,000	200	個	10,000,000	
現場管理費	14,000,000	1	式	14,000,000	補助対象 49,210,200 (計算は欄外参照)
一般管理費	40,000,000	1	式	40,000,000	
小計				844,000,000	
⑧ 付加価値税10%				84,400,000	
合計				928,400,000	

補助対象割合 = 補助対象金額 / (補助対象外金額 + 補助対象金額)
 = 720,000,000 / (70,000,000 + 720,000,000)
 = 91.139... = 91.13%
 補助対象の現場管理費および一般管理費
 = (14,000,000 + 40,000,000) × 91.13% = 49,210,200 IDR

- 経済性の観点から、可能な範囲において複数者から見積りを取り、当該見積りの中で最低価格を提示した者を選定(一般の競争等)してください。
- 上記が補助事業の遂行上著しく困難又は不相当である場合(複数者から見積りを取らない場合又は最低価格を提示した者を選定しない場合)には、その選定理由を明らかにした選定理由書を整備してください。
 「公募要領 4. 交付申請以降の諸手続きについて (3) 事業の開始にあたっての注意事項」② 参照
- 日本語以外で書かれたものは和訳を作成し、添付してください。

①宛名: コンソーシアム内の事業者宛としてください。

②書類番号: 見積書番号の記載により経費内訳や積算書等との紐付けを明確にしてください。

③見積作成者: 発注先事業者の押印または責任者のサインが必要です。

④見積条件等: 応募時において見積有効期限内のものとしてください(交付申請時にも変更が無ければ、同じ見積書を応募時の見積有効期限内のもので提出して構いません)。

⑤通貨単位を明確にしてください。

⑥補助対象外の費用が含まれる場合(既存設備の撤去費など)は、それを除外した金額を欄外等に明記してください。

⑦補助対象外の経費にかかる現場管理費、一般管理費を合理的な方法で除外してください。

⑧現地付加価値税等(VATなど): 原則、除外してください(還付や仕入税額控除にかかる現地制度の調査結果をGECに提示の上で、必要と認められる場合を除く)。

⑨金額: 小数点以下の数字が含まれていないか確認してください。

(例) 労務費集計表

202X年度（令和〇年度）二国間クレジット制度資金支援事業のうち設備補助事業 事業者名：A社

積算表① 労務費積算表

202X年度			202X						202Y						時間合計	労務費単価 (円/時間)	金額(円)
氏名	役割		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
A	プロジェクト管理							50.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	110.00	5,762	633,820
B	現場技術指導							50.00	10.00	80.00	50.00	20.00	20.00	10.00	240.00	4,802	1,152,480
C	現場技術指導							14.00	14.00	14.00	14.00	10.00	10.00	10.00	86.00	3,842	330,412
合計(時間)								114.00	34.00	104.00	74.00	40.00	40.00	30.00	436.00		2,116,712

202Y年度			202Y						202Z						時間合計	労務費単価 (円/時間)	金額(円)
氏名	役割		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
A	プロジェクト管理		5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	60.00	5,762	345,720
B	現場技術指導		50.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	10.00	10.00	5.00	5.00	5.00	5.00	115.00	4,802	552,230
C	現場技術指導		50.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	10.00	10.00	5.00	5.00	5.00	5.00	115.00	3,842	441,830
合計(時間)			105.00	15.00	15.00	15.00	15.00	15.00	25.00	25.00	15.00	15.00	15.00	15.00	290.00		1,339,780

202Z年度			202Z						202*						時間合計	労務費単価 (円/時間)	金額(円)
氏名	役割		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
A	プロジェクト管理		5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	90.00	90.00	5.00					210.00	5,762	1,210,020
B	現場技術指導		50.00	5.00	50.00	5.00	5.00	90.00	90.00	10.00					305.00	4,802	1,464,610
C	現場技術指導		50.00	5.00	50.00	5.00	5.00	90.00	90.00	10.00					305.00	3,842	1,171,810
合計(時間)			105.00	15.00	105.00	15.00	15.00	270.00	270.00	25.00					820.00		3,846,440

測量及び試験費 合計 7,302,932

積算表③ 労務費積算表

202X年度			202X						202Y						時間合計	労務費単価 (円/時間)	金額(円)
氏名	役割		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
D	経理・契約事務							10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	70.00	3,842	268,940
合計(時間)			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	70.00		268,940

202Y年度			202Y						202Z						時間合計	労務費単価 (円/時間)	金額(円)
氏名	役割		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
D	経理・契約事務		5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	6.00	6.00	62.00	3,842	238,204
合計(時間)			5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	6.00	6.00	62.00		238,204

202Z年度			202Z						202*						時間合計	労務費単価 (円/時間)	金額(円)
氏名	役割		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
D	経理・契約事務		5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	90.00	5.00					125.00	3,842	480,250
合計(時間)			5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	90.00	5.00					125.00		480,250

※労務費単価は202X年度実績による

事務費 合計 987,394

- ・様式任意(公募のホームページに公開している【様式4】経費内訳のエクセルシートをダウンロードして参照可能)。
- ・役割を記入ください。
- ・事業を行うために直接必要な調査、測量、基本設計、実施設計、工事監理及び試験にかかる従事者の「労務費」は**工事費の「測量及試験費」**に計上し、事務手続きの従事者やアルバイトにかかる経費は**事務費の「賃金」**として計上してください。

(参考：労務費請求に必要な書類)

労務費を補助対象として申請する場合、労務費単価表および算出根拠資料（給与台帳（又は給与明細）、給与支払額が分かる書類、法定福利費の算出根拠、給与規定、業務日誌、タイムカード等）などの資料の提出が必要となりますのでご注意ください。

(例) 労務費単価算出表

労務費単価算出表

事業名: _____
 事業者名: _____
 作成日: _____

従事者氏名: B
 企業カレンダー等に記載の所定労働日数を入れてください
 賞与は等級はないので空欄のままです。
 一般的な会社の給与対象は3月分になるので標準的保険料率を使用した例になっています。

労務管理責任者 所属 _____ 氏名 _____

参考: 2021年度一般の事業の保険料率で計算しています
 標準主負担分 雇用保険料率 6/1000 労務保険率 3/1000
 ・事業の等級により保険料率が異なります。

月	所定勤務日数	基本給	諸手当			基本給 + 諸手当	社会保険料事業主負担分				賞金総額 (総支給額)	労働保険事業主負担分		総額			
			管理職手当	地域手当	通勤手当		①健康保険		③厚生年金	④子ども・子育て拠出金		⑤雇用保険	⑥労災保険				
							等級	金額							金額	金額	
202X年4月分	21	440,000	0	75,000	22,000	537,000	31	26,076	4,770	27	48,495	1,700	722,000	4,332	2,166	87,539	624,539
202X年5月分	17	440,000	0	75,000	0	515,000	31	26,076	4,770	27	48,495	1,800	700,000	4,200	2,100	87,441	602,441
202X年6月分	22	440,000	0	75,000	0	515,000	31	26,076	4,770	27	48,495	1,800	700,000	4,200	2,100	87,441	602,441
賞与(6月)		750,000	0			750,000		37,013	6,713		68,625	2,700	750,000	4,500	2,250	121,801	871,801
202X年7月分	22	440,000	0	75,000	0	515,000	31	26,076	4,770	27	48,495	1,800	700,000	4,200	2,100	87,441	602,441
202X年8月分	21	440,000	0	75,000	0	515,000	31	26,076	4,770	27	48,495	1,800	700,000	4,200	2,100	87,441	602,441
202X年9月分	19	440,000	0	75,000	0	515,000	31	26,076	4,770	27	48,495	1,800	700,000	4,200	2,100	87,441	602,441
202X年10月分	21	470,000	0	75,000	22,000	567,000	32	27,552	5,040	28	51,240	1,908	722,000	4,332	2,166	92,238	659,238
202X年11月分	19	470,000	0	75,000	0	545,000	32	27,552	5,040	28	51,240	1,908	700,000	4,200	2,100	92,040	637,040
202X年12月分	18	470,000	0	75,000	0	545,000	32	27,552	5,040	28	51,240	1,908	700,000	4,200	2,100	92,040	637,040
賞与(12月)		750,000	0			750,000		37,013	6,713		68,625	2,700	750,000	4,500	2,250	121,801	871,801
202Y年1月分	18	470,000	0	75,000	0	545,000	32	27,552	5,040	28	51,240	1,908	700,000	4,200	2,100	92,040	637,040
202Y年2月分	20	470,000	0	75,000	0	545,000	32	27,552	5,040	28	51,240	1,908	700,000	4,200	2,100	92,040	637,040
202Y年3月分	22	470,000	0	75,000	0	545,000	32	27,552	5,040	28	51,240	1,908	700,000	4,200	2,100	92,040	637,040
計	240	6,960,000	0	900,000	44,000	7,904,000		395,793	72,286		735,660	27,548		59,664	29,832	1,320,783	9,224,783

人件費総額-通勤手当	9,180,783	円	消費税率別計算を10%で計算。
通勤手当(消費税率別)	40,000	円	
年間総額x1	9,220,783	円	
所定労働時間(日)	8.00	時間	
年間理論総労働時間x2	1920.00	時間	

料率	①健康保険料	②介護保険	③厚生年金保険	④子ども・子育て拠出金	⑤雇用保険	⑥労災保険
			H29.9月~	3月給与 4月支給分	4月給与 5月支給分	
事業主負担	XX%	XX%	XX%	XX%	XX%	XX%
本人負担	XX%	XX%	XX%	-	-	XX%
標準主負担率	XX%	XX%	XX%	100%	100%	XX%

子ども・子育て拠出金の変更は、4月分保険料(5月支払分)の【社会保険料集計表】を作成するときにを行います。したがって3月分と4月分の両方を記載ください。

時間外時間単価の計算は基本給と地域手当に40時間を超えたときの標準倍率1.25倍として、ここでは算出しています。時間外時間単価4,140円が時間内時間単価4,802円より低い金額になる理由は、社会保険料事業主負担分①②③④と労働保険事業主負担分⑤⑥を算定に含めることができないためです。時間外時間単価に含めることができる手当は、基本給・管理職手当・地域手当になります。

一般社員~時間外手当の付く管理職の方の時間外時間単価の計算は、社内給与規定に基づき計算をしてください。この時、一律の平均値にして単価を決めてください。

・給与を管理している人事等にご相談の上、作成してください。

時間内時間単価 = (①年間総支給額 + ②年間法定福利費) ÷ ③年間理論総労働時間数 ※1円未満切り捨て

- ※応募書類では、上記①~③は令和3年度の給与実績を使用してください。
- ※①は時間外手当や食事手当等の福利厚生的な手当を除外してください。
- ※②は健康保険料、厚生年金保険料(厚生年金基金の掛金部分を含む)、労働保険料、児童手当拠出金、労働基準法に基づく休業補償等の事業者負担分
- ※③は1日の所定勤務時間×年間の所定勤務日数(残業時間は含まず)。

様式任意(公募のホームページに公開している【様式4】経費内訳のエクセルシートをダウンロードして参照可能)。

経費内訳 積算根拠資料(旅費の積算等)

(例) 旅費積算表 (【様式4】経費内訳 積算表②(旅費)【例2】)

積算表② 旅費積算表
202X年度

※様式②:旅費積算表【例2】
※例1を用いて作成しても可。

比張時期	比張日数	出張者氏名	等級	用途	金額			航空券		国内空港使用料		海外空港		航空保険料 燃料及燃油 特別付加 運賃		航空券取扱料金		宿泊		日当		その他			
					合計	(課税分)	(非課税分)	(非課税)	(課税)		(非課税)	(非課税)	(課税)		(非課税)		(非課税)		その他						
						小計(税抜)	小計	計	税込計	税抜計	計	計	税込計	税抜計	計	内訳	計	内訳	計	ビザ	現地				
1	202X年9月	5	A	1	現地調査	185,407	8,737	186,670	70,000	2,610	2,373	4,070	14,600	7,000	6,364	18,000	6,000×3泊	50,000	10,000×5	30,000	5,000	25,000			
2	202X年9月	5	B	3	現地調査	165,407	8,737	156,670	70,000	2,610	2,373	4,070	14,600	7,000	6,364	18,000	6,000×3泊	40,000	8,000×5	10,000	5,000	5,000			
3	202X年11月	5	B	3	機務導入立会い	165,407	8,737	156,670	70,000	2,610	2,373	4,070	14,600	7,000	6,364	18,000	6,000×3泊	40,000	8,000×5	10,000	5,000	5,000			
合計(円)					526,221																				

202Y年度

比張時期	比張日数	出張者氏名	等級	用途	金額			航空券		国内空港使用料		海外空港		航空保険料 燃料及燃油 特別付加 運賃		航空券取扱料金		宿泊		日当		その他			
					合計	(課税分)	(非課税分)	(非課税)	(課税)		(非課税)	(非課税)	(課税)		(非課税)		(非課税)		その他						
						小計(税抜)	小計	計	税込計	税抜計	計	計	税込計	税抜計	計	内訳	計	内訳	計	ビザ	現地				
5	202Y年4月	5	B	3	工事立会い	165,407	8,737	156,670	70,000	2,610	2,373	4,070	14,600	7,000	6,364	18,000	6,000×3泊	40,000	8,000×5	10,000	5,000	5,000			
6	202Y年4月	5	C	5	工事立会い	160,407	8,737	151,670	70,000	2,610	2,373	4,070	14,600	7,000	6,364	18,000	6,000×3泊	35,000	7,000×5	10,000	5,000	5,000			
合計(円)					325,814																				

202Z年度

比張時期	比張日数	出張者氏名 (等級)	等級	用途	金額			航空券		国内空港使用料		海外空港		航空保険料 燃料及燃油 特別付加 運賃		航空券取扱料金		宿泊		日当		その他			
					合計	(課税分)	(非課税分)	(非課税)	(課税)		(非課税)	(非課税)	(課税)		(非課税)		(非課税)		その他						
						小計(税抜)	小計	計	税込計	税抜計	計	計	税込計	税抜計	計	内訳	計	内訳	計	ビザ	現地				
7	2022年4月	5	B	3	工事立会い	165,407	8,737	156,670	70,000	2,610	2,373	4,070	14,600	7,000	6,364	18,000	6,000×3泊	40,000	8,000×5	10,000	5,000	5,000			
8	2022年4月	5	C	5	工事立会い	160,407	8,737	151,670	70,000	2,610	2,373	4,070	14,600	7,000	6,364	18,000	6,000×3泊	35,000	7,000×5	10,000	5,000	5,000			
9	2022年6月	5	B	3	工事立会い	165,407	8,737	156,670	70,000	2,610	2,373	4,070	14,600	7,000	6,364	18,000	6,000×3泊	40,000	8,000×5	10,000	5,000	5,000			
10	2022年6月	5	C	5	工事立会い	160,407	8,737	151,670	70,000	2,610	2,373	4,070	14,600	7,000	6,364	18,000	6,000×3泊	35,000	7,000×5	10,000	5,000	5,000			
11	2022年6月	10	A	1	試運転立会い	255,407	8,737	246,670	70,000	2,610	2,373	4,070	14,600	7,000	6,364	48,000	6,000×8泊	100,000	10,000×1	10,000	5,000	5,000			
12	2022年9月	10	B	3	試運転立会い	235,407	8,737	226,670	70,000	2,610	2,373	4,070	14,600	7,000	6,364	48,000	6,000×8泊	80,000	8,000×10	10,000	5,000	5,000			
13	2022年9月	10	C	5	試運転立会い	225,407	8,737	216,670	70,000	2,610	2,373	4,070	14,600	7,000	6,364	48,000	6,000×8泊	70,000	7,000×10	10,000	5,000	5,000			
14	2022年10月	10	A	1	現場指導	255,407	8,737	246,670	70,000	2,610	2,373	4,070	14,600	7,000	6,364	48,000	6,000×8泊	100,000	10,000×1	10,000	5,000	5,000			
15	2022年10月	10	B	3	現場指導	235,407	8,737	226,670	70,000	2,610	2,373	4,070	14,600	7,000	6,364	48,000	6,000×8泊	80,000	8,000×10	10,000	5,000	5,000			
16	2022年10月	10	C	5	工事機取作立立会い	225,407	8,737	216,670	70,000	2,610	2,373	4,070	14,600	7,000	6,364	48,000	6,000×8泊	70,000	7,000×10	10,000	5,000	5,000			
合計(円)					2,084,070																				

※積算根拠別添: 航空券見積書、ホテル予約Webサイト、旅費規程

測量及び試験費 合計 2,936,105

202Z年度

比張時期	比張日数	出張者氏名 (等級)	等級	用途	金額			航空券		国内空港使用料		海外空港		航空保険料 燃料及燃油 特別付加 運賃		航空券取扱料金		宿泊		日当		その他			
					合計	(課税分)	(非課税分)	(非課税)	(課税)		(非課税)	(非課税)	(課税)		(非課税)		(非課税)		その他						
						小計(税抜)	小計	計	税込計	税抜計	計	計	税込計	税抜計	計	内訳	計	内訳	計	ビザ	現地				
17	2022年10月	10	D	5	工事機取作立立会い	225,407	8,737	216,670	70,000	2,610	2,373	4,070	14,600	7,000	6,364	48,000	6000×8泊	70,000	7000×10	10,000	5,000	5,000			
合計(円)					225,407																				

※積算根拠別添: 航空券見積書、ホテル予約Webサイト、旅費規程

事務費 合計 225,407

- 様式は、公募のホームページに公開している【様式】経費内訳「積算表②(旅費)【例2】」シートを推奨。
- それぞれに根拠資料が必要となります。例) 航空券見積書、料金表、予約Webサイト、社内旅費規程等
- 労務費と同様に、事業を行うために直接必要な調査、測量、基本設計、実施設計、工事監理及び試験にかかる従事者の旅費は**工事費の「測量及試験費」**に計上し、事務手続きの従事者やアルバイトにかかる旅費は**事務費の「旅費」**として計上してください。

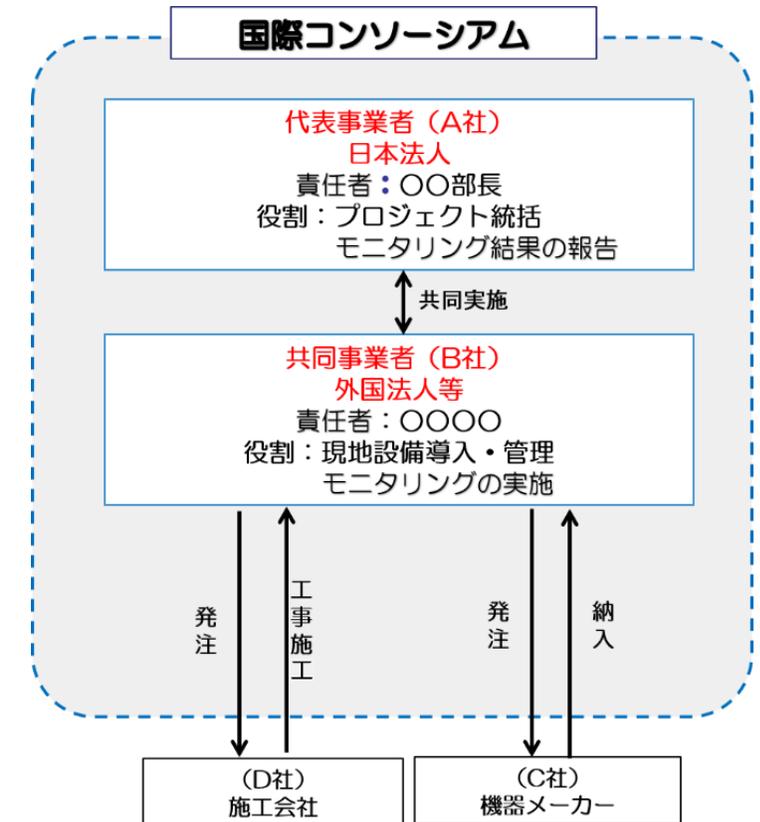
課税
<ul style="list-style-type: none"> 本邦空港施設使用料 (空港ごとに使用料が異なります。ホームページ等でご確認ください) 航空発券手数料 国内の空港までの鉄道料金等 国内宿泊費 日当(国内)
不課税
<ul style="list-style-type: none"> 現地空港施設利用料 航空券代 海外宿泊費 日当(海外)

《国際コンソーシアム》

- ✓ 日本法人と外国法人により構成され、事業を効率的に実施する組織。
- ✓ 国際コンソーシアムに参画する日本法人の1者を代表事業者、それ以外の構成員を共同事業者とする。申請は代表事業者が行う。
- ✓ コンソーシアム内の補助事業者が自社の製品等を調達する場合、通常の市場価格で取引しても差し支えない。補助対象経費の算定にあたっては補助事業者の利益等相当分を除外する。
- ✓ 導入設備の所有者及び使用者は必ずコンソーシアム内の事業者とする。

《国際コンソーシアム協定書》

- 原則センターのウェブサイトに掲載しているひな形に沿った内容とすること。なお、提案書には、応募者側で必要と判断した条文も含めた協定書案を添付すること。
- 応募時には協定書（案）と、協定書の署名に向けた協議状況を（必要に応じてMoU等の資料も添付し）説明すること。
交付申請時には署名済のものが必須。
- 国際コンソーシアム体制図を添付する(日本語または英語)。
- 国際コンソーシアム構成員の役割や責任を、国際コンソーシアム協定書案（書類番号5-01）に明記すること。



Agreement on the Allocation of JCM Credits

- 黄色マーカー箇所を変更してご提出ください。
- 共同事業者が2社以上の場合は、それぞれ作成ください。
- 本注意書きは削除してご提出ください。

AGREEMENT ON THE ALLOCATION OF JCM CREDITS

This Agreement on the Allocation of Joint Crediting Mechanism (hereinafter referred to as "JCM") Credits is signed on XX May 2022 by **Project Participant A** having its head office located at XXXX, and by **Project Participant B** having its head office located at XXXX, to determine the allocation of JCM credits.

The Project Participants intend to form an International Consortium and jointly implement the **Title of Project** (hereinafter referred to as "Project") in case the proposal is selected as the JCM Model Project, which is funded by the Ministry of the Environment, Japan, and administered by the Global Environment Centre Foundation.

THEREFORE, in consideration of the premises and mutual covenants set forth herein, the Project Participants hereto agree to deliver the issued JCM credit with the percentage decided by the Ministry of the Environment, Japan corresponding to GHG emission reductions achieved by the registered JCM project for the legal durable years of the facilities to be installed by the Project to the Japanese government.

IN WITNESS WHEREOF, the Project Participants hereto have executed this Agreement as of the day and year written above. The copy of this Agreement will be submitted to the Global Environment Centre Foundation as a part of the proposal.

Project Participant A

Project Participant B

Date: _____

Date: _____

Signature: _____

Signature: _____

Name

Name

Title

Title

- センター指定様式に、国際コンソーシアム協定書に押印（又は署名）予定の者が押印（又は署名）してください。
- 黄色マーカー箇所を変更してご提出ください。
- 共同事業者が2社以上の場合は、それぞれ作成ください。

（例）代表事業者A、共同事業者B及びCの場合

- ① Project Participant A—Project Participant B
- ② Project Participant A—Project Participant C

- 共同事業者が設立されていない場合、共同事業者に出資するすべての出資予定者と作成ください(作成は複数に分けても構いません)。

6. 応募者の会社概要・事業実績に係る資料 応募者の経理状況説明書

7. 共同事業者の会社概要・事業実績に係る資料 共同事業者の経理状況説明書

(JCMエコリース事業は7の経理状況説明書が不要)

(1) 会社概要、事業実績に係る資料

- ① 事業概要（会社パンフレット等）及び定款
- ② 応募する事業に関連した事業実績の説明
応募案件に関連した事業者の業務実績があれば添付してください。

類似事業の実績：

- * 導入する設備に関する日本又は海外での実績

JCM関連業務の実績：

- * JCM設備補助事業やNEDOのJCM実証事業の実績など

(2) 経理状況説明書

- ① 直近3決算期の監査済みの貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、キャッシュフロー計算書及び監査報告書
 - ・法令上キャッシュフロー計算書を作成する義務がない場合は、これを提出しなくてもかまいません。その場合、「有利子負債/営業キャッシュフロー倍率」は、「有利子負債/営業利益倍率」を計算して記載し、当該項目名を「有利子負債/営業利益倍率」と書き換えてください。リース会社はこの項目の計算は不要です。
 - ・監査報告書は、当該財務諸表作成において準拠した会計基準がなにか、提出された財務諸表がその会計基準に準拠し、かつ適正に表示されていることを明確に証するものを提出してください。
 - ・特別目的会社（SPC）等、設立の認可を受けている者は、設立の認可を受け、又は設立の認可が適当であるとされた法人の申請年度の事業計画及び収支予算の案を提出してください。
 - ・当該事業の資金調達親会社等の出資・融資・保証による場合（共同事業者が特別目的会社（SPC）の場合を含む）は、これらの関係者についても同様の資料を提出してください。
 - ・連結決算と単体決算の両方のものがある場合、いずれも添付してください（代表事業者、共同事業者いずれについても、自身が親会社である場合は自社の単体と連結の財務諸表、子会社である場合は自身の財務諸表に加え、親会社の連結と単体の財務諸表）。
- ② 経営改善計画等（応募時は任意）
直近3期のうち、1期でも営業損失、経常損失又は債務超過が存在する場合、これらの問題が発生した原因、具体的な改善策とその実効性を論じた経営改善計画等を添付してください（様式は任意で既存資料又は新規文書のいずれでもよいです。既にマイナス状態が解消されている場合は、マイナスだった理由を記載してください）。

- ① 応募時に、法人の設立から1会計年度を経過していない場合：
応募年度の事業計画及び収支予算。
- ② 法人の設立から1会計年度を経過し、かつ、2会計年度を経過していない場合：
応募年度の事業計画及び収支予算と、直近の1決算期に関する監査済みの財務諸表。
- ③ 法人の設立から2会計年度を経過し、かつ、3会計年度を経過していない場合：
直近の2決算期に関する財務諸表。

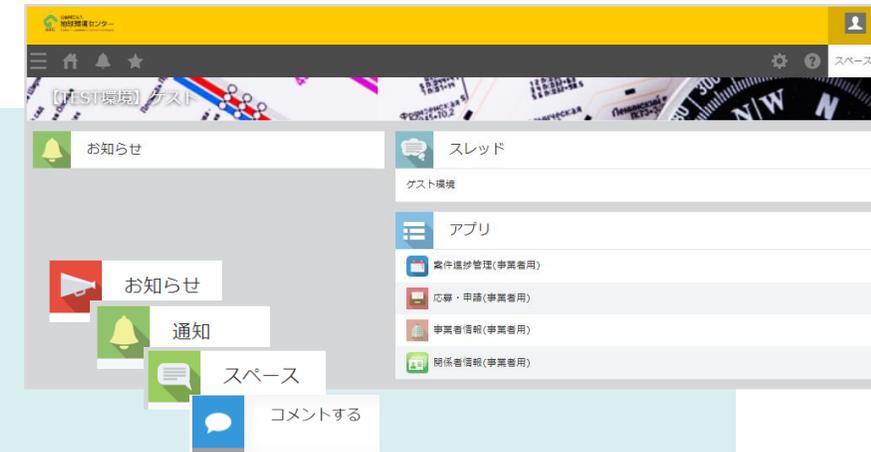
【応募様式6】提出書類チェックリスト

令和○年度二国間クレジット制度資金支援事業のうち設備補助事業				
応募者名				
国名及び事業名 ○○/○○○※【様式1】公募提案書に記載の事業名を記載すること。				
書類番号	書類	確認欄	様式	備考
0	【様式6】公募提案書類チェックリスト		センター指定様式	本紙、確認欄にチェックを入れること。該当しない場合は「-」を記入すること
1	【様式1】公募提案書		センター指定様式	
2	【様式2】代表事業者届出書		センター指定様式	
3-00	【様式3-00】実施計画書		システム入力	(出力時:最大10ページ)
3-01	事業の主たる実施場所		任意様式	【様式3-00】実施計画書の添付資料(同計画書の記載内容の補足または根拠を示す資料)
3-02	許認可等取得状況		任意様式	
3-03	環境影響評価の実施状況		任意様式	
3-04	原材料調達や売電等にかかる調整状況		任意様式	
3-05	実施体制図		任意様式	
3-06	代表事業者の事業参画意志		任意様式	
3-07	共同事業者の事業参画意志		任意様式	
3-08	3-08-01 資金調達の確実性 3-08-02 リース契約書(案)及びリース料算出内訳 3-08-03 JCMリース事業の計算フォーマット		3-08-01、3-08-02 任意様式 3-08-03 センター指定様式	
3-09	投資回収年数及び内部収益率		任意様式	
3-10	3-10-01 主要機器リスト 3-10-02 導入設備・機器の仕様書及びカタログ		任意様式	
3-11	3-11-01 導入設備・機器の概要図 3-11-02 配置図 3-11-03 システム図		任意様式	
3-12	GHG 排出削減量算定		センター指定様式	
3-13	モニタリング機器の仕様書及びカタログ		任意様式	
3-14	モニタリングに関するシステム図		任意様式	
3-15	事業実施スケジュール		任意様式	
3-16	【様式3-16】Project Idea Note for the Model Project		センター指定様式	英文で最大3ページ(体制図は別ページでも可)
4-01	【様式4】経費内訳		システム入力	
4-02	積算根拠資料		任意様式	【様式4】経費内訳の添付資料(費目別経費の積算根拠を示す見積書・積算書等)。資料番号は見積書等毎に4-02-01、4-02-02、...と割り振ること。
5-01	国際コンソーシアム協定書(案)		センター指定様式	提案時点ではドラフト(サインなし)を添付すること。協定書案にはコンソーシアム体制図を含めること。
5-02	【様式5】Agreement on the Allocation of JCM Credits		センター指定様式	押印又は署名済み合意書のコピーを添付すること。
6-01	応募者の会社概要・事業実績		任意様式	企業パンフレット等の事業概要資料及び定款(寄付行為)
6-02	応募者の経理状況説明書		任意様式	資本構成、直近3決算期に関する監査済みの貸借対照表、損益計算書及びキャッシュフロー計算書
7	共同事業者の会社概要・事業実績		任意様式	6-01に同じ
8	その他参考資料		任意様式	

※特に様式に指定がないものは、任意の様式とする。

提出書類のチェックリスト【様式6】に基づいて必ずクロスチェック（複数人のチェック）を行ってください。

- ① 公募期間は、令和4年4月6日(水)～令和4年11月30日(金)正午です。
但し、交付内示額が予定額に達した段階で終了となります。
第一次採択審査分の応募締切りは令和4年5月9日(月)12:00(正午)です。
第二次採択審査分の応募締切りは令和4年7月29日(金)12:00(正午)です。



② 応募に関する質問の受付及び回答

○ 受付方法

電子メールにて本件窓口へ送信してください。電子メールの件名は、「質問：令和4年度設備補助事業」としてください。

○ 受付期間及び回答

令和4年4月15日（金）17時まで

○ 回答

受付期間終了から1週間程度でセンターのウェブページに掲載します。

- ③ 原則として、一度申請された内容・書類の変更は受け付けません。

ご清聴
ありがとうございました！

<本件窓口>

公益財団法人 地球環境センター

東京事務所 事業第一グループ

担当: 高橋、石原

E-mail : jcm-info@gec.jp